

奄美大島笠利町佐仁方言の格・とりたて・形容詞・談話資料

白田理人（広島大学）・重野裕美（広島経済大学ほか）

1 はじめに

鹿児島県奄美大島佐仁方言（以降、佐仁方言）は、奄美大島の北端の佐仁（さに）集落（鹿児島県奄美市笠利町佐仁、旧大島郡笠利町）で話される（図1参照）。奄美市役所発行の資料によれば、2021年12月末現在の佐仁集落の人口は258人（170世帯）である。

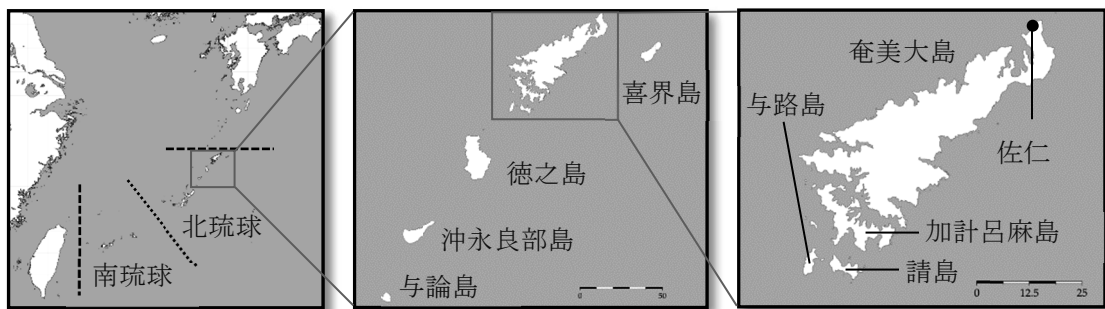


図1 琉球列島／奄美群島／奄美大島／佐仁集落の位置

本稿は白田・重野（2021）の内容を補完し、佐仁方言の格・とりたて・形容詞・談話資料を報告するものである。

佐仁方言の先行研究として、語彙集（狩俣 2003）、アクセント付き名詞・用言資料集（上野 1996・1997）、敬語形式の報告（重野 2014, 重野・白田 2018）、モーラー一覧・格助詞と取り立て助詞の文例・童謡「おおきなかぶ」の方言訳（白田 2018）、動詞・形容詞の活用語例・文例及び場面設定会話の資料（白田・重野 2019）がある。佐仁方言は近隣の方言との差が大きく、「言語の島」と言われており、先行研究では主な特徴として両唇破裂音の保持（例 [pana]「花」、[puni]「船」）、語頭で広母音、半広母音に遡る母音の前での k の h への変化（例：[hata]「肩」、[huji]「腰」）、母音間の m の脱落及び後続母音の鼻母音化（例：[jaã]~[ja:]「山」）が指摘されている（狩俣 2003, 上野 1996, 1997 参照、ただし、本稿の調査協力者の話者には鼻母音は見られなかった）。

以下、2節で本稿において用いる表記について述べた上で、3節で格・取り立て・形容詞資料、5節で談話資料を報告する。

2 本稿において用いる表記

佐仁方言の音声（モーラ）と、本稿で用いるカナ表記の対応を表1に示す（この他、長音を「ー」、撥音を「ン」、促音を「ッ」で表記する）。カナ表記は、基本的に狩俣（2021）に基づく（ただし、後述するように中舌母音には統一して「°」を付している）。表中の

「—」は存在しないまたは未確認の音、灰色の網掛け部分は比較的最近の借用語に限られる音、白抜き部分は話者によっては見られない音である。

表 2 佐仁方言カナ表記一覧

段 行	直音							拗音		
	ア	イ	イ°	ウ	エ	エ°	オ	ア	ウ	オ
	a	i	i̇	u	(j)e	ë	o	ja	ju	jo
ア	ア	イ		ウ	エ		オ			
—	a	i		u	e		o			
カ	カ	キ	キイ°	ク	ケ	ケエ°	コ	キヤ	キユ	キヨ
k	ka	ki	kī	ku	ke	kë	ko	kja	kju	kjo
カ		°キ		°ク	°ケ		°コ	°キヤ		°キヨ
k°		k°i		k°u	k°e		k°o	k°ja		k°jo
クア	クア					クエ°				
k°w	k°wa					k°wë				
ガ	ガ	ギ	ギイ°	グ	ゲ	ゲエ°	ゴ	ギヤ	ギユ	ギヨ
g	ga	gi	gī	gu	ge	gë	go	gja	gju	gjo
グア	グア									
gw	gwa									
サ	サ		スイ°	ス		セエ°	ソ			
s	sa		sī	su		së	so			
シャ	シャ	シ		シュ	シェ		シヨ			
ε	εa	εi		εu	εe		εo			
ザ	ザ		ズイ°	ズ		ゼエ°	ゾ			
(d)z	(d)za		(d)zī	(d)zu		(d)zë	(d)zo			
ジャ	ジャ	ジ		ジュ	ジェ		ジョ			
(d)z	(d)za	(d)zi		(d)zu	(d)ze		(d)zo			
タ	タ		テイ°	トウ		テエ°	ト			
t	ta		tī	tu		të	to			
°タ	°タ		°テイ°	°トウ						
t°	t°a		t°i	t°u						
ダ	ダ		デイ°	ドウ		デエ°	ド			
d	da		dī	du		dë	do			
ツア			ツイ°	ツ		ツエ°	ツオ			
ts°			ts°i	ts°u		ts°ë	ts°o			
チャ	チャ	チ		チュ	チェ		チョ			
te	tea	tei		teu	tee		teo			

ʔチャ	ʔチャ	ʔチ	—	ʔチュ	—	—	—	—	—	—
teʔ	teʔa	teʔi	—	teʔu	—	—	—	—	—	—
ナ	ナ	ニ	ヌイ°	ヌ	ニエ	ネエ°	ノ	ニヤ	ニユ	ニヨ
n	na	ni	nī	nu	nje	nē	no	nja	nju	njo
ʔナ	ʔナ	ʔニ	—	—	—	—	—	—	ʔニユ	—
nʔ	nʔa	nʔi	—	—	—	—	—	—	nʔju	—
ハ	ハ	ヒ	ヒイ°	フ	ヘ	ヘエ°	ホ	ヒヤ	ヒユ	ヒヨ
h	ha	hi	hī	hu	he	hē	ho	hja	hju	hjo
バ	バ	ビ	—	ブ	ベ	ブエ°	ボ	ビヤ	ビユ	ビヨ
b	ba	bi	—	bu	be	bē	bo	bja	bju	bjo
パ	パ	ピ	—	プ	—	プエ°	ポ	ピヤ	ピユ	ピヨ
p	pa	pi	—	pu	—	pē	po	pja	pju	pjo
ʔパ	ʔパ	ʔピ	—	ʔプ	ʔペ	—	ʔポ	—	—	—
pʔ	pʔa	pʔi	—	pʔu	pʔe	—	pʔo	—	—	—
マ	マ	ミ	—	ム	メ	メエ°	モ	ミヤ	ミユ	ミヨ
m	ma	mi	—	mu	me	mē	mo	mja	mju	mjo
ʔマ	ʔマ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
mʔ	mʔa	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヤ	ヤ	’イ	—	ユ	イエ	—	ヨ	—	—	—
j	ja	ji	—	ju	je	—	jo	—	—	—
ʔヤ	ʔヤ	—	—	ʔユ	ʔイエ	—	ʔヨ	—	—	—
jʔ	jʔa	—	—	jʔu	jʔe	—	jʔo	—	—	—
ラ	ラ	リ	ルイ°	ル	リエ	レエ°	ロ	リヤ	リュ	リヨ
r	ra	ri	rī	ru	rje	rē	ro	rja	rju	rjo
ワ	ワ	—	—	’ウ	—	ウエ°	ヲ	—	—	—
w	wa	—	—	wu	—	wē	wo	—	—	—
ʔワ	ʔワ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
wʔ	wʔa	—	—	—	—	—	—	—	—	—

佐仁方言の音声とカナ表記に関する注意点を以下に示す。

- 語根初頭の母音（ア行）の前には声門閉鎖音[ʔ]が現れる（例：アウ[ʔau]「雨」、イシヨ[ʔieo]「漁」、ウシ[ʔuei]「牛」、オ[ʔo]「泡」）。
- 語根初頭の、声門閉鎖音を伴わない緩やかな声立ての母音は’イ、’ウと表記する（例：’インガ[(j)inga]「男」、’ウトウ[(w)utu]「夫」）。
- 母音i（イ段）、ī（イ°段）、u（ウ段）は、無声子音に挟まれる環境で無声化する（例：キチャ[kitea]「着た」、ʔマキイ°サ[mʔakisa]「大きい」、クサ[kusa]「草」）。

- 中舌母音は添字「イ°」／「エ°」で表記する（スイ°[sɪ]「巢」、ムエ°ン[mɛ̃n]「燃える」）。
- k（カ行）及びp（パ行）は（音声的に有声の）母音に挟まれると摩擦音で現れることがある（例：ヤバラカ[jaɸaraxa]「柔らかい」）。
- 喉頭化音と呼ばれる、喉頭の緊張を伴う（あるいは、声門閉鎖音[ʔ]との二重調音となる）子音を持つモーラを表すカナには「ʔ」を付している（例：ʔクビ[kʔubi]「首」、ʔマ[mʔa]「ここ」）。
- kw（クァ行）及びts（ツァ行）は喉頭化子音のみ（例：クァ[kʔwa]「子」、ツイナ[tsʔina]「綱」）であり、非喉頭化音と対立しないため、カナ表記に「ʔ」は付していない。
- 語根初頭以外で喉頭化音／非喉頭化音の対立があるのは「キ」「ク」のみである（例：イʔキ[ʔikʔi]「息」、イキ[ʔiki]「行け」、パʔク[pʔakʔu]「箱」、パクナ[pakuna]「吐くな」）。このため、語根初頭以外では、「キ」「ク」の場合のみ喉頭化音／非喉頭化音の書き分けを行い、その他は「ʔ」を付さずに表記している。
- （クァ行及びツァ行以外でも）語根初頭以外でかつ「キ」「ク」以外では、「ʔ」を付していなくても、先行母音が無声化する場合に音声上は喉頭化音で現れている場合がある（例：アトラシキヤ[ʔataraciʔja]「もったいない」、ヌプカ[nuɸʔkʔa]「暖かい」）。
- 促音の直後では喉頭化音／非喉頭化音の対立がなく、音声的には喉頭化音で現れることがあるが、カナ表記に「ʔ」は付していない（例：アックナ[ʔakkʔuna]「歩くな」）。

3 佐仁方言の格・とりたて・形容詞資料

本稿で報告する形容詞の例文は、以下の調査票に基づくものである。

(1) 本事業の共通の調査票

➤ 助詞（格・とりたて）調査票・形容詞語彙調査票・形容詞活用調査票

(2) 追加調査票

➤ 形容詞語彙調査票に基づく資料の中で、形容詞による形式の違いが見られた「～くて」、「～くない」、「～そうだ」について独自に作成した調査票

例文資料は、2021年2月・9月・11月に行った聞き取り調査で得たものである。話者は、佐仁集落出身・在住の安田重照氏（昭和13年生まれ・男性）、安田絹枝氏（昭和18年生まれ・女性）の2名である。複数の形式が得られた場合は{A/B}のように示している。随意的な部分は（ ）で囲んでいる。例文は上段が共通語、下段が佐仁方言である。ただし、下段は上段の文意を訳したものであり、必ずしも語形が一对一对応しているわけではない。助詞（格・とりたて）調査票については、格助詞／とりたて助詞と、例文番号との対応の一覧を付す。また、形容詞語彙／活用調査票については、調査のターゲットとなっている形容詞の共通語訳を例文番号に加えて記す。

助詞（格・とりたて）調査票	
1	（ごめんください。）太郎、いる？
	（キョーロー。） タローヤ 'ウンニヤ？
2	ううん、太郎はいないよ。
	アイ タローヤ 'ウランドー。
3	どこに行ったの？
	ダーッチ イジ？
4	太郎は、朝から畑に芋を掘りにいつている。
	タローヤ スィ°カマラガ パテェ°ッチ トン プリガ イジャガ。
5	いつ帰ってくるの？
	イツィ° モドティ° キュリエー？
6	昼ごはんの前には帰ってくる。
	アスィ°バン カユン ムィ°ーガルィ°ナンティ°ヤ モドティ° キュンダッカ。
7	時間があるならお茶でも飲まない？
	ピョーヌ アルィ°バ チャンキャ ヌディ°キャンナ？
8	ううん、11時までには家に戻らなくてはいけない。
	アイ ジューイチジガルィ°ナンティ° ヤッチ モドリマイジャ。
9	昼ごはんのあとでもう一度来るね。
	アスィ°バン カダン アトラガ ?ナ ?チューケェ°リ キュンカナヨ。
10	私は今日は忙しいから、だれか役場に行ってくれないかなあ？
	ワンヤ フーヤ イシヨナカンカナ タルカ ヤ?クバッチ イジ ?クルィ°ランケェ°イ？
11	役場へは私たち二人で行ってもいいよ。
	ヤ?クバッチヤ ワキャ ?ターリ イジャンチ イッチャットー。
12	車が無いからバスかタクシーで行こう。
	?クルマヌ ネェ°ンカナ バスカ タクシーシ イキョー。
13	小銭が無かったので、紙幣を硬貨に替えてもらった（くずした）。
	クズィ°ンヌ ネェ°ーズィ° ウーズィ°ンバ クズィ°ンチ クヤシヤ。
14	あ、バス来たよ。
	ウルィ° バスヌ キチャガ。
15	えっ、こんなに早くバスが来たの？
	アギィ° ガンペェ°ーカ バスヌ キチ？
16	うん。もう来たんだよ。
	ンー。 キチャガ。
17	さあ、あのバスに乗ろう。
	ディ°ー アン バス ヌロー。

18	わたしの鍬その辺にある？
	ワン トゲェ°ヤ ウンボテェ°ナンティ° アンニヤ？
19	どこをさがしても鍬が無いんだよ。
	ダー トゥータンチ ト (一) ゲェ°ヌ ネェ° ンガ。
20	あった。あった。ここにあったよ。
	アタ。 アタ。 ?マー (ナ) ンティ° アタットー。
21	どれがおまえの鎌だ？
	ドゥルイ°ガ ?ヤン ハーウルイ°？
22	その柄の短い鎌が私のだ。
	ウン 'イヌ { イツキヤカン ハーガ / イツキヤカンガ } ワンジャガ。
23	この柄の長い鎌は三郎のか？
	ウン 'イヌ ナガカン ハーヤ サブロンナ？
24	うん、それは弟の鎌じゃない。
	アイ ウルイ°ヤ ウトウトウヌ ハーヤ アランガ。
25	この鎌は三郎の鎌じゃないのか？
	ウン ハーヤ サブロンミヤ アランチ？
26	うん、それは弟の鎌じゃない。
	ンー ウンミヤ ウトウトウヌ ハーヤ アランガ。
27	じゃあ、この鎌は誰のだ？
	アッスイ°ルイ°バ ウン ハーヤ タツカンケェ°イ？
28	それはおじいさんの鎌かもしれない。
	ウルイ°ヤ フッシュン ハー (ヤ) アランケェ°イ？
29	太郎はあした那覇へ友だちに会いにいっらしい。
	タローヤ アッシャ ナパッチ ドウシトウ アイガ イキョンチュカ。
30	ここから那覇までの船賃はいくらなの？
	?マーラガ ナパガルイ°ヌ プナチンヤ キャッサケェ°イ？
31	往復で五千円ぐらいだろう。
	イキモドリシ ゴセェ°ンエンバリ ダロ。
32	沖縄には飛行機で行くより船で行ったほうが安いね。
	ナパッチヤ ヒコー?キシ イキョンニカ プヌイ° シ イキバドゥ ヤスイ°カットヤー。
33	でも、船は一日に一回しかないよ。
	アッシュンバ プヌイ°ヤ ?チー ?チュプリドゥ イジンヌ。
34	港ならこっちの道が近道だ。
	トーリチヤ ?マヌ ミチ (ガ) ドゥ チキヤミチジャガ。

35	車が来るから、道のまんなかをあるいてはいけない。
	?クルマヌ キュンカナ ミチ マンナーヤ アッチ (ヤ) イキャン。
36	港で甥の五郎に会った。
	トーリナンティ° 'ウイヌ ゴロートウ アウタ。
37	那覇からの船に乗って来たんだって。
	ナバラガヌ プヌイ° ヌティ° キチャンチュカナ。
38	五郎は日曜日まで島にいて、月曜日に帰るそうだよ。
	ゴローヤ ニチヨービガルイ° ショーナンティ° 'ウティ° ゲツヨービ モドリユンチュカ。
39	たしかお宅のお孫さん小学生だったよね。
	マチゲェ°ネェ°ンバ ナキャン ?マーガヤ ショーガクセェ°イドウ アタットヤ。
40	うん、去年から小学校に通っている。
	シー フズラガ ショーガッコッチ イジュンジャガ。
41	孫は目と口が私によく似ている。
	?マーガヤ ムートウ クチガ ムール ワントウ ニシュリ。
42	ここは海にちかいので魚がうまい。
	?マーヤ ウントウ チキヤカンカナ ?ユヌ ?マカリ。
43	一郎は朝から海へ魚をとりにいった。
	イチローヤ スイ°カマラガ ウンチ ?ユ トウリガ イジャ。
44	おまえはこの魚の名まえを知っているか？
	?ヤヤ ウン ?ユヌ ナ シッチュンニヤ？
45	これはカツオだろう？
	ウルイ°ヤ カツオダログ？
46	うん、そうだよ。カツオだよ。
	シー アッシジャガ。 カツオジャガ。
47	肉より魚のほうがおいしい。
	シシニカ ?ユドウ ?マカ。
48	私はタコのさしみが食べたい。
	ワンヤ タウヌ サシン カイシャカ。
49	刺身もおいしいけど、焼いた魚もおいしいよ。
	サシンダカ ?マカッカ ヤジャン ?ユダカ ?マカットヤー。
50	酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう？
	セェ°ーヤ キャシ ス°クリュンカロ ?ヤーヤ シッチュンニヤ？
51	うん。酒は米からつくるんだよ。
	シー セェ°ーヤ フーシ ス°クリュンドー。

52	私は酒さえあれば他にはなにもいらない。
	ワンヤ セェーサエ アルイ°バ プカヤ ヌー イラン。
53	二郎は酒も飲まないし、たばこも吸わない。
	ジローヤ セェーダガ ヌワンバ ター°クダカ プカン。
54	雨のふる日には太郎は家でテレビばかり見ている。
	アウヌ プリユン ピヤ タローヤ ヤーナンティ° テェ°レェ°ビバリ ニシュッカ。
55	おれはさつまいもなんか食べないぞ。
	ワンヤ トンヌンキャ カンドー。
56	食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。
	カディ° ヌイ°ブリバリ スィ°ルイ°バ インマヤトウ °ティ°°ツイ°ジャ。
57	たまにはお父さんの手伝いぐらいしろ。
	ト°キナヤ °チャン カシンキャ シニ。
58	太郎、この荷物を家までかついで行ってくれ。
	タロー ウン ニー ヤーガルイ° ハタウティ° イジ °クルイ°ルイ°。
59	荷物が重いので、二郎と二人でもってもいいか？
	ニーヌ ウブカッカ ジロートウ °ターリシ ムッチ { カーマンケェ°イ / イッチャッケェ°イ } ？
60	いとこの花子は英語の本が読める。
	イトコヌ ハナコヤ イエイゴヌ ホン ユイ°キルッカ。
61	私は花子に英語を教えてもらった。
	ワンヤ ハナコニ イエイゴ ユスイ°ラッティ°ド。
62	去年花子が中学の先生になった。
	フズ ハナコヤ チューガッコヌ キョーイン ナティ°ド。
63	二郎は小遣いのことでおとうとの三郎とけんかした。
	ジローヤ クズケズィ°ンサバクリシ ウトウトウヌ サブロートウ トラタンチュカ。
64	三郎は二郎にげんこつで頭をなぐられた。
	サブローヤ ジローニ ツブルッチ テェ°ッコ スカッタンチュカ。
65	二郎と三郎は喧嘩のことでじいさんにしかられた。
	ジロートウ サブローヤ { トライサバクリシ / トラタンチシ } フッシュニ °ヤッタンチュカ。
66	その話は妻にだけ聞かせた。
	ウン パナシヤ トウジニバーリ キキャシャンジャガ。
67	あ、雨（が）ふってきた。
	アギイ° アウヌ プティ°ツチャガ。
68	やねの上にとこの布団がほしてあったよ。
	ヤン°チジンティ° イトコヌ プトン プシャタガ。

69	あーあ、布団が雨に濡れてびしょびしょだ。
	アゲェ°ー プトンヌ アウニ { ツィ°ッカッティ° / シタティ° } シタリバッターリジャ。
70	きのうは風が強かったねえ。
	?キヌヤ ハズィ°ヌ ?チューカ アタヤー。
71	あれ、部屋の中に枯葉が入っているよ。
	ハギィ°ー ヤヌ ナーチ ハルィ°バヌ イッチュッカ。
72	あの開いた窓から入ったんだよ（入ったにちがいない）。
	アン アシュン マドラガ イッチッチャンジャガ。
73	ほら、真っ白な鳥が空を飛んでいるよ。
	ハレェ° シルカン トウリヌ ティ°ンバ トウドウッカ。
74	あの羽の白い、くちばしの長い鳥はなんだろう。
	アン パヌィ°ヌ シルカン クチヌ ナガカン トウリヤ ヌードウリケェ°イ?
75	あの鳥はシラサギかもしれないね。
	アン トウリヤ シラサギカ シェレェ°ラン。
76	北海道広かったねえ。
	ホッカイドーヤ ピルカ アタヤー。
77	うん。食べ物もおいしかったねえ。
	ンー カイムンダカ ?マカ アタヤー。
78	北海道にはクマがいるそうだね?
	ホッカイドーヤ ?クマヌ { 'ウン アンブェ°ヤ / 'ウンチュカヤ }。
79	うん。シカもフクロウもいるらしいよ。
	{ アッシシュカ / ンー }。 シカダカ マヤスイ°キィ°プダカ { 'ウンシュカ / 'ウンチュカ }。
80	北海道にはめずらしい菓子がたくさんあった。
	ホッカイドー (ナ) ンティ°ヤ ムズィ°ラカン ?クァシヌ ワザリ アタ。
81	このお菓子はいくらで買ったの?
	ウン ?クァシヤ { キャッサシ / キャッキシ } ハウティ°?
82	このお菓子は北海道で二千円で買った。
	ウン ?クァシヤ ホッカイドーナンティ° { ニシエンエンシ / ニセェ°ンエンシ } ハウタ。
83	おみやげはおばあさんから先にあげた。
	ニヤーゲェ°ヤ アンマラガ サ?キ ヤラシヤ。
84	ばあさんのおなじおみやげを花子にもかってやった。
	アンマトウ 'インシコヌ ニヤーゲェ°バ ハナコニダカ ハウティ° ヤラシヤ。
85	孫たちにあげるつもりで菓子を買ってあった。
	?マーガンキャニ ?クルィ°ン ツォーリシ ?クァシ ハウティ° ウシヤ。

86	お菓子は箱の中にかくつあるとおもう？
	?クァシヤ パクヌ ナー (ナ) ンティ° イクツィ° アンチ オーユリェー？
87	やつつぐらいじゃないかな。
	ヤーツイ°バリ アランケェ°イ？
88	四つしか残っていないよ。
	ユーツイ°ドゥ ノートウットー。
89	台所に行ったらお母さんがスイカを切ってあった。
	シロデェ°ツチ イジャットウ オックンガ セェ°ツクア キチャタリ。
90	(包丁があるのをみて) この包丁で切ったんだ。(切ったに違いない)
	ウン ポツシャシドゥ キチャツカ。
91	おまえ、かごはどうやって作るか分かるか？
	?ヤヤ カゴ キャッシ ス?クリュンカ (ロ) ワカリュンニヤ？
92	小刀で竹を削ってつくとおもう。
	コガタナシ デェ°ーバ プサジ ス?クリュンチ オーユツカ。
93	稲刈りのときには子どもにまで手伝わせる。
	ニーハリヌ ドウ?キ (ヤ) ワレェ°グァニガルイ° カシ スイ°ラシュットー。
94	花子はきのうから病気でねている。
	ハナコヤ ?キヌラガ ビョー?キシ ヌイ°プトウツカ。
95	花子はかあさんにごはんをたべさせてもらった。
	ハナコヤ オックンニ ムン カーサッタガ。
96	花子はお粥しか食べられなかった。
	ハナコヤ カエバリドゥ カイ?キルタ。
97	医者がかれたくすりをのめばなおるだろう。
	イシャヌ イジャシャン クスリ ヌーバ ノーリュンダツカ。
98	病気を治すにはたくさん食べて、十分寝なければならない。
	ビョー?キ ノーシュン { ナルイ°バ / アルイ°バ } ヤナーカ ムン カディ° ヤナーカ ヌイ°ブランバ イキャン。
99	そこには女しか入れない。
	?マーヤ ’ウナグバリドゥ イラルイ°ットー。
100	男なら赤ちゃんでも絶対に中には入れない。
	?インガ { ナルイ°バ / アルイ°バ } アー?コガ アタンチ ナーツチャ イララン。
101	教えてもらわなければなかに入っていた。入っていたにちがいない。 (実際には、入らなかった)
	ユスイ°ラランバ ナーチ { イルンドロ アタガ / イリュタガ }。
102	石と石の間から水が湧いている。
	イシトウ イシ (トゥ) ヌ ?イエーダラガ ムズイ°ヌ プシュツカ。

103	この水、沸かした水より美味しいよ。
	ウン ムズィヤ { タギラシャン ムズィニカ / タギラシャンニカ } ?マッカ。
104	ほら、ひとくち飲んでみて。
	ウルィ° ?チュクチ ヌディ°ニ?
105	花子もお菓子が好きかもしれない。
	ハナコダカ ?クァシ (ヤ) スィ°?キカ シェレェ°ラン。
106	和子と花子は友だちだ。
	カズコトウ ハナコ (トウ) ヤ ドウシジャガ。
107	(タバコの吸い殻をみて) 先生はここに居たんだ。
	{ シェンシェイヤ / セェ°ンセェ°イヤ } ?マーナンティ° オータンジャ。
108	人は生きるために働かなければならない。
	?チュヤ イ°キルン タウ パタラカンバ イキャン。
109	食べやすいようにお母さんが団子を串から外してあった。
	カイヤカンニシ オッカング デェ°ーグシラガ ダグバ パガシャタ。
110	おとななのに卵焼きさえ作れないのか?
	ウッチュ アンバ パンビンヤシマ ス°クリ°キラン?
111	いつもお母さんにつくってもらっていたから何も作れない。
	イツィ°ン°クン オッカニ ス°クラシュタンカナ ヌーヤシマ ス°クリ°キラン。
112	まだ一度も作ったことがない。
	?ナーガルィ° ?チュプリヤシマ スクタン { クトウヌ / クトウヤ } ネェ°ン。
113	私でさえ持てないのに、おまえには持てないよ
	ワンヤシマ ムチ°キランヌ ?ヤーシヤ ムチ°キラン。
114	友だちとの約束は守らなければならない。
	ドウシトウヌ ?キムィ°グトウヤ マモランバ イキャン。
115	あの人こそ金持ちだ。
	アン ?チュクサ ズィ°ンムッチャジャガ。

- 助詞（格・とりたて）調査票における格助詞／とりたて助詞と例文番号の対応
 - 主格（が）
 - ガ：21, 22, 34, 41, 89, 109
 - ヌ：7, 12, 13, 15, 19, 22, 23, 35, 42, 54, 59, 67, 69, 70, 71, 73, 74, 78, 80, 97, 102
 - 対格（を）
 - バ：13, 73, 92, 109
 - ゼロ助詞：4, 17, 19, 37, 43, 44, 48, 58, 60, 61, 68, 84, 85, 89, 91, 95, 97, 98, 105
 - 属格（の）
 - ヌ：24, 26, 30, 34, 36, 37, 44, 48, 60, 62, 63, 68, 71, 86, 93, 102, 114
 - ン／ゼロ助詞：18, 39, 28, 57
 - 与格（に）
 - ニ：61, 64, 65, 66, 69, 84, 85, 93, 95, 111
 - 場所格（に／で）
 - （ナ）ンティ°：6, 8, 18, 20, 36, 38, 54, 68, 82, 86, 107
 - 方向格（に／へ）
 - （ッ）チ：3, 4, 8, 10, 11, 13, 29, 32, 34, 40, 43, 64, 71, 89, 100, 101
 - 奪格（から）
 - ラガ：4, 9, 30, 37, 40, 43, 72, 83, 94, 102, 109
 - 具格（で）
 - シ：12, 31, 32, 51, 59, 63, 65, 81, 82, 90, 92, 94
 - 共格（と）
 - トゥ：29, 36, 41, 42, 56, 59, 63, 65, 84, 102, 106, 114
 - 比較格（より）
 - ニカ：32, 47, 103
 - 主題（は）
 - ヤ：1, 2, 4, 6, 10, 11, 18, 23, 24, 25, 27, 28, 29, 30, 32, 33, 35, 39, 41, 42, 43, 44, 45, 48, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 70, 74, 75, 76, 78, 80, 81, 82, 83, 86, 91, 93, 94, 95, 96, 99, 100, 103, 106, 105, 107, 108, 114
 - ミヤ：25, 26
 - 焦点（ぞ）
 - ドゥ：32, 33, 34, 47, 88, 96, 99
 - 「も」
 - ダカ：49, 77, 79, 84, 105
 - ヤシマ：110, 111, 112, 113
 - ゼロ助詞：52
 - 「まで」
 - ガルイ°：6, 8, 30, 38, 58, 93, 112
 - 「ばかり／だけ／ぐらい」
 - バリ／バーリ：31, 54, 56, 66, 87, 96, 99
 - 「さえ」サエ：52, 「こそ」クサ：115, 「なんか」（ヌ）ンキヤ：7, 55, 57

形容詞語彙調査票		
1	痛い	熱はないけど、頭が痛い。
		ネェ°ツヤ ネェ°ンバ ハーチヌ ヤユン。
2	かゆい	蚊にくわれたところがかゆい。
		ガジャンニ クアッタン ドロヌ ヨゴカ。
3	けむたい	煙がたくさん出てけむたい。
		ヒイ°プシヌ ヤナカ イジティ° ヒイ°ブカ。
4	苦しい	なんだか胸が苦しい。
		ヌガカロ ヌイ°ーヌ クツィ°ナカ。
5	くすぐったい	脇の下を触られると、くすぐったい。
		ワ°キヌ シャ サドラリイ°バ パゴカ。
6	だるい	朝から体がだるい。
		スイ°カマラガ ドゥーヌ ダロカ。
7	眠い	昨夜夜更かしをして、今日は眠い。
		ユブイ° (ヤ) ユワカシ シ フーヤ アゴカ。
8	ひもじい	朝から何も食べていないので、とてもひもじい。
		スイ°カマラガ ヌヤシマ { カンカナ / カーズィ° / カディ° ネェ°ンカナ / カドゥランカナ } ユワカ。
9	まぶしい	雲が無くて、太陽がまぶしい。
		?コーヌ ネェ°ンズィ° ティ°ダンヌ ピキヤロカ。
10	忙しい	近頃仕事が忙しい。
		ホノゴロ シグトウヌ イシヨナカ。
11	すべっこい	油をこぼしたので、床がすべっこい。
		アブラバ ウックシャットウ ユカヌ ナビルカ。
12	欲しい	食べ物よりもお金が欲しい。
		カイムニカ ズィ°ンガ プッシャ。
13	多い	この集落には元気な年寄りが多い。
		ウン ムラナンティ°ヤ ドウクサン ウッチュヌ ウーカ。
14	少ない	女より男が少ない。
		'ウナグニカ 'インガガ イ°キラカ。
15	珍しい	あれ、このバナナ、赤いよ。珍しいね。
		アギイ° ウン バシャナリヤ アーカッカ。 { ムズィ°ラカンジャ / ムズィ°ラカヤ }。
16	浅い	フライパンは汁鍋より浅い。
		フライ°パンヤ シルナブニカ アサカ。
17	深い	家族が多いから、深い汁鍋を使っている。
		キィ°ンズ°クヌ ウーカンカナ プカカン シルナブバ スイ°カトウン。

18	新しい	買ったばかりだから、まだ新しい。
		ハウティ° ヤタ アンカナ ?ナーガルイ° ミーカ。
19	古い	おじいさんが建てた家はもう古い。
		フッシュガ タテェ°タン ヤーヤ ?ナ プルカ。
20	厚い	この板は重くて、厚い。
		ウン イタヤ ウブクティ° アチカ 。
21	厚みが薄い	もう少し薄い板を持ってきて。
		?ナンナリ プスイ°カン イタ ムシ?クー。
22	粗い	この網は目が粗い。小魚が逃げてしまう。
		ウン アンヤ ムヌ アラカ。 クァーユグァヤ ピンギドー。
23	細かい	この篩（ふるい）は目が細かい。
		ウン プリヤ ムヌ オロカ。
24	美しい	花はどれも美しい。
		パナヤ { ヌークン / ドウルイ° アタンチ } キラカ。
25	汚い	泥がついて汚い。
		ミチャヌ ?クッカティ° { キサネェ°カ / ?イエシカ / ?イエッシャ }。
26	醜い	映画に出てくる化け物は、醜い顔をしている。
		クァツイ°ドーチ イジティ° キュン バケムンヤ { ヨーソワッサン / ヨーソワルカン } ツイ°ラ シュン。
27	大きい	冬瓜はかぼちゃより大きい。
		シブリヤ ツブルニカ ?マキイ°サ。
28	小さい	レタスはキャベツより小さい。
		レェ°タスヤ タマナニカ ギイ°ナカ。
29a	窮屈	一昨年買った上着は窮屈だ。
		ミチュナティ° ハウタン ウワギヤ クツイ°ナカ。
29b	窮屈	最近太ったから、この上着は窮屈だ。
		ホノゴロ クェ°タンカナ ウン ウワギヤ クツイ°ナカ。
30	広い	今住んでいる家は庭が広い。
		?ナー ?クラシュン ヤーヤ ヤンムヌ ピルカ。
31	狭い	以前は狭い家に住んでいた。
		マエヤ イバカン ヤーナンティ° ?クラシュタ。
32	高い	エベレスト山は富士山より高い。
		イエベレェ°ストザンヤ フジサンニカ ターカ。
33	低い	阿蘇山は富士山より低い。
		アソザンヤ フジサンニカ マルカ。

34	近い	役場までならとても近い。すぐ隣だ。
		ヤ?クバガリイ° { ナリイ°バ / アルイ°バ } ムル チキヤカ。 スグ { アズイ°ラジャ / ソトナリジャ }。
35	遠い	家から学校までは遠い。
		ヤーラガ ガッコーガリイ°ヤ トウーカ。
36	強い	北の湖は貴乃花より強い。
		キタノウミヤ タカノハナニカ ?チューカ。
37	弱い	貴乃花は北の湖より弱い。
		タカノハナヤ キタノウミニカ ユワカ。
38	長い	家の竹竿は、太くて長い。
		ヤーヌ デェ°ゾーヤ ?マキイ°サ (ダカ) アテイ° ナガカ。
39	短い	この鎌の柄は細くて短い。
		ウン ハーヌ ?イーヤ オロカ (ダカ) アテイ° イッキヤカ。
40	のろい	次郎は仕事のがのろい。
		ジローヤ シグトウヌ ヨデェ°カ。
41a	速い	太郎は走るのが速い。
		タローヤ パシリユンガ プェ°ーカ。
41b	早い	今日は早く起きた。
		フーヤ プェ°ーカ ウータ。
42a	遅い	次郎は歩くのが遅い。
		ジローヤ アッキユンヌ ヨデェ°カ。
42b	遅かった	寝るのが遅かった。
		ヌイ°ブリユンガ オソカ アタ。
43	太い	この縄は太い。
		ウン ツイ°ナヤ ?マキイ°サ。
44	細い	もう少し細い縄を持ってこい。
		?ナンナリ オロカン ツイ°ナ ムシクー。
45	緩い	君の帯の締め方は緩い。もっときつく締めろ。
		?ヤン オビヌ シューカタヤ ユルカ。 ?ナンナリ ?チューカ { シューテイ°ニ / シュールイ° }。
46	若い	若いうちが花だ。若いときは二度と来ない。
		ワーカン ウチガ { パナドー / パナジャ }。ワーカ ン トウ?キヤ ニドウトウ クンドー。
47	幼い	孫の太郎はまだ幼い。
		?マーガヌ タローヤ ?ナーガリイ° ギイ°ナカ。

48	荒い	今日は風も強くて、波も荒い。
		フーヤ ハズイ°ダカ ?チュークティ° ナンダカ アラカ。
49	明るい	満月の夜は明るい。
		マンゲツヌ ユルヤ アーガトウン。
50	暗い	月のない夜は暗い。
		スイ°?キヌ ネェ°ン ユルヤ ?クラカ。
51	温かい	冷たい汁より温かい汁の方がおいしい。
		ピグルジルニカ { アスイ°カン / ヌプカン } シルガ ?マカ。
52	ぬるい	お湯が冷めてしまったから、ぬるい。
		ユーヌ サウティ° ヌルカ。
53	冷たい	井戸水はいつでも冷たい。
		{ ホーヌ ムズイ°ヤ / ホームズイ°ヤ } イツイ° アタンチ ピグルカ。
54	暖かい	太陽も出てきて今日は昨日より暖かい。
		ティ°ダンヌ イジティ°ッチ フーヤ ?キヌニカ ヌプカ。
55	暑い	今年の夏は去年の夏よりも暑い。
		フトウシヌ ナツイ°ヤ フズヌ ナツイ°ニカ アスイ°カ。
56	寒い	北風が吹いて、今日は朝から寒い。
		ニシヌ プチ フーヤ スイ°カマラガ ピグルカ。
57	涼しい	木の下影は涼しい。
		ヒィ°ーヌ シャーヌ ハギイ°ヤ スイ°ダカ。
58	熱い	作ったばかりのおつゆは熱い。
		シー ヤタヌ シルヤ ヤユン。
59	甘い	黒砂糖は、甘い。
		?クルザタヤ アーカ。
60a	辛い	唐辛子はとても辛い。
		コショヤ ムル パナパッチ。
60b	辛い	唐辛子を入れたら辛くなった。
		コショ イルイ°タットウ ユーマサリ パナパッチ。
61	おいしい	向こうの食堂は安くておいしい。
		アーヌ ショ°クドーヤ { ヤスイ°カダカ アルイ°バ / ヤスイ°カ アティ° } ?マカ。
62	渋い	熟していないバナナは渋いよ。
		ウドウラン バシャナリヤ シブカ。
63	しょっぱい	お父さんがつくる味噌汁はいつもしょっぱい。
		?チャンガ ス°クリュン ミスンシルヤ イツイ°ン°クン シュガラカ。

64	味がうすい	塩が足りなくて薄味だ。
		マシヨヌ イ?キラカ アティ° アーカ。
65	味が濃い	出汁がよくきいて、味が濃い。
		ダシヌ ムール キチ アジヌ クイカ。
66	酸っぱい	梅干しも酸っぱいけどレモンも酸っぱい。
		ウメボシダカ スィ°ーカッカ レェ°モンダカ スィ°ーカ。
67	苦い	よく効く薬は苦い。
		キキュン クスリヤ ギャーカ。
68	まずい	父が作る味噌汁はまずい。
		?チャンガ ワーシュン ミスンシルヤ ?マ?ク ネェ°ン。
69	重い	鉄は木より重い。
		テェ°ツヤ ヒィ°ーニカ ウブカ。
69	重い	重い病気にかかった。
		コプェ°カン ビョー?キ ナタ。
70a	軽い	私は兄より5キロ軽い。
		ワンヤ アニニカ ゴ?キロ カルカ。
70b	軽い	二度目のお産は軽かった。
		ニドゥミヌ サンヤ ドゥヤカ アタ。
71	太っている	あの子はお父さんに似て太っている。
		アン クァヤ 'インガヌ ウヤトゥ ニシ クェ°トゥリ。
72	痩せている	この子はお母さんに似て痩せている。
		ウン クァヤ 'ウナグヌ ウヤトゥ ニシ イェトゥリ。
73	固い	木も固いが、鉄はもっと固い。
		ヒィ°ーダカ フパカッカ テェ°ツヤ ?ナープン フパカ。
74	柔らかい	作りたての餅は柔らかい。
		スィ°チ ヤタヌ ムチャ ヤパラカ。
75	もろい	センダンの木は、もろいので床には使えない。
		{ シンダンヌ ヒィ°ヤ / シンダンギィ°ヤ } ブックギィ° アンカナ ユカッチヤ スィ°カワラン。
76	粘り強い	この木の枝は曲がっても折れない。とても粘り強い。
		ウン ヒィ°ヌ ユダヤ { マガティ°ヤ 'ウンバ 'ウルィ°ラン / マガティ°モ ウッチュルィ°ラン }。 ムール スィ°ズィ°ジュエカ。
77	悪い	この洗濯機は壊れやすくて品質が悪い。
		ウン シェンタッキヤ { ヤブルィ°ヤカヌ / ヤブルィ°ヤクティ° } シナヌ ワルカ。
78	香ばしい	バラの花は、とても香ばしい。
		バラヌ パナヤ ムール ハバカ。

79	臭い	豚小屋の近くは臭い。
		?ワンセエ°ヌ チキヤカヤ クサカ。
80	けむたい	生木を燃やしたから、けむたい。
		ナーギイ° { モーシャットウ / ムエ°ーシャットウ } ヒイ°ブカ。
81	やかましい	車の音がやかましくておちつけない。
		?クルマヌ ウトウヌ { ミンチャカヌ / ミンチャクティ° } イエスイ°カン。
82a	うるさい	ラジオの音がうるさくて声が聞こえない。
		ラジオヌ ウトウヌ { コーティ°ナカヌ / コーティ°ナクティ° } ファイヌ キキヤラン。
82b	うるさい	ハエがうるさい。
		パイヌ コーティ°ナカ。
83	かしましい	ハエがまとわりついて、かしましい。
		パイヌ ?クツカリスイ°キイ°ティ° ミンコーティ°ナカ。
84	荒い	うちのおじさんは怒りっぽくて気が荒い。
		ワキャン 'ウジャ { ?キョージブエ°カヌ / ?キョージブエ°クティ° } ヤナゲエ°ムン。
85	おとなしい	妹の花子は（静かで）おとなしい。
		ウトウトウヌ ハナコヤ イエスイ°チュン。
85	おとなしい	メス牛はおとなしい。
		'ウナグウシヤ イエスイ°チュン。
86	賢い	あの子は頭もよくて、賢い。
		アン クァヤ ツイ°ブルダカ イッチャ アティ° ツルギドー。
87	詳しい	うちの祖母は機織りのことに詳しい。こんど聞いてみよう。
		{ ワキャン / ヤーヌ } アンマヤ { ノノウリヤ / ノノウリヌ クトウヤ } ?クワショー (ジャ)。 コンド キチンニョ。
88	しつこい	何回ことわっても家にくる。しつこいひとだ。
		イ?クプリ コトワタンチ ヤーチ キュン。 クトウムスイ°カカン ?チュジャ。
89	しぶとい	体は小さいが（粘り強くて）しぶとい。
		ドゥーヤ ギイ°ナカツカ シブカ。
90	すばしこい	すばしこい子は、追っかけっこでもなかなか捕まらない。
		ダグルカン クァーヤ ウースイ°キイ°?クマ シヤンチ アティ°ダン ミンギヤラン。
91	逞しい	太郎も成長して逞しい青年になった。
		タローダカ ポデエ°ティ° オーリョーゲエ°カン ネエ°ッセエ° ナタ。

92	鈍い	年寄り、若い人より動くのが鈍い。 ウッチュヤ ワーカン ?チュニカ { ドゲェンヌ / ドゲェンガ } ヨデェカ。
93	ひとなつっこい	この子はとてもひとなつっこい。 ウン クァヤ ムール ?チューナスィカカ。
94	優しい	花子さんは誰にでも優しい。 ハナコヤ { タルンクンニ / タルニ アタンチ } ?キョーギラカ。
95	危ない	崖の側は危ないから子どもは行かない方がいい。 サクヌ { ブチャ / アズィラヤ } アブネェカンカナ ワレェグァンキヤヤ イキャンバ イッチャ。
96	おもしろい	このドラマはおもしろい。 ウン ドラマヤ オーシルカ。
97	つまらない	このドラマはつまらない。 ウン ドラマヤ オーシルク ネェン。
98	かわいそう	(親猫に死なれた子猫をみて) かわいそうだ。 ?キョーシャキィサ。
99	不思議だ	(手品を見ながら) あんなところから水が出てくるなんて、不思議だ。 アッシュン ドロラガ ムズィヌ イジティ° キュンチバ オトナカ。
100	完全である	傷がひとつも無くて完全だ。 { ?キズィ°?ティ°ツイ° / ?キズィ°ヌ ?ティ°ツイ°モ } ネェン (ティ°) ?ユン クトウ (ヤ) ネェン。
101	すばらしい	新しくできた役所は、すばらしい。 ミーカ { デェ°ケェ°タン / デェ°キィ°タン } ヤクショヤ 'イーダッカジャ。
102	値段が高い	この店の品物はみんな高い。 ウン ミシヤヌ シナムンヤ { スー / アンカリ } ターカ。
103	安い	地元の(自分たちの)魚はおいしくて安い。 ドゥンキヤヌ ?ユーヤ ?マカ アティ° ヤスィ°カ。
104	貧しい	お金がなくて貧乏だった。 ズィンヌ ネェ°ーズィ° ヨーシャ アタ。
105	裕福だ	今は暮らしも楽で裕福だ。 ?ナーヤ ?クラシダカ ラク ナティ° プギンシャジャ。
106	偉い	この町で一番偉いのは、村長さんだ。 フン マチナンティ° イチバン 'イー°チュヤ ソンチョージャ。

107	難しい	掛け算より割り算が難しい。
		カケザンニカ ワリザンガ ムスイ°カカ。
108	易しい	足し算は引き算よりやさしい。
		タシザンヤ ピ°キザンニカ ヤスイ°カ。
109	いい	仕事も終わったから、もう帰ってもいい。
		シグトゥダカ ウワタンカナ ?ナ モドテイ° イッチャッカ。
110	もったいない	まだ使えるのに捨てるのはもったいない。
		?ナーガルイ° スイ°カワルイ°ンバ { スイ°テイ°ンミヤ / スイ°テイ°ンチバ } アタラシキヤ。
111	正しい	君の言っていることは正しい。
		?ヤーガ イシュンミヤ ギヌ カナトゥッカ。
112	悪い	先に手を出したお前が悪い。
		サ?キ ティ°ー イジャシャン ?ヤーガ ワルカ。
113	良い	世の中のために良いことをした。
		シキンヌ タウ 'イクトウ シヤ。
114	良い	うちの孫は学校の成績が良い。頭がいい。
		{ ワキャン / ヤース } ?マーガヤ ガッコース シェイシェ?キガ イッチャ。アタマガ イッチャ。
115	青い	松の葉は青い。
		マツイ°ヌ パーヤ オーカ。
116	赤い	デイゴの花は赤い。
		ディ°ンギイ°ヌ パナヤ アーカ。
117	黄色い	熟んだバナナは黄色い。
		ウダン バシヤナリヤ ?キーカ。
118	白い	白米は玄米よりも白い。
		シラゲェ°タン フーヤ ゲンマイニカ シルカ。
119	黒い	カラスの羽は黒い。
		ガラスイ°ヌ パヌイ°ヤ ?クルカ。
120	丸い	満月は丸い。
		マンゲツヤ マルカ。
121	四角い	豆腐は四角い。（※枡のようにカクカクしている）
		トープヤ マスイ°ニシ カ?クカ?ク シュン。
122	平たい	この石は皿のように平たい。
		ウン イシヤ サラニシ ピラッタ シュン。
123	鋭い	包丁の先はととも鋭い。
		{ ポーチャヌ / ポーシャヌ } サ?キヤ ムール イライラ シュットー。

124	羨ましい	私は若い人が羨ましい。
		ワンヤ ワーカン { ?チュバ / ?チュガ } オナオカ(リ)。
125	恥ずかしがる	たくさんの人の前に出て恥ずかしがっている。
		ヤナカヌ ?チュヌ ムーチ イジティ° パスイ°カカ シュン。
126	嬉しがっている	小遣をもらってとても嬉しがっている。
		コズカイ 'イティ° ムール ポーラカ シュン。
127	喜んでいる	小遣をもらってとても喜んでいる。
		コズカイ 'イティ° ムール ユル?クドウン。
128	欲しがっている	赤ちゃんがオッパイを欲しがっている。
		アー?コガヌ ?チーバ プッシャ シュン。
129	嬉しそうにしている	小遣をもらって、嬉しそうにしている。
		コズカイバ 'イティ° オーシルカ シュン。
130	食べやすい	柔らかく煮た豚足は、とても食べやすい。
		ヤパラカ ニシャン ?ワンパギヤ ムール カイヤカ。
131	食べにくい	この魚は骨が多くて、食べにくい。
		ウン ?ユーヤ ギヌ ウークティ° カングルカ。
132	嬉しそう	褒められて、とても嬉しそうだ。
		フーラッティ° ムール オーシルゲェ°カ。
133	おいしそう	今日のごちそうは、おいしそうだ。
		フーヌ カイムンヤ { ?マチャキィ°サ / ?マシャキィ°サ }。
134	暑そうだ	(晴れた空を見て) 今日暑そうだ。
		フーダカ アスイ°カゲェ°カ
135	男らしい	石原裕次郎は、とても男らしい。
		イシハラユージローヤ ムール 'インガラッシャ。
136	女らしい	吉永小百合は、誰よりも女らしい。
		ヨシナガサユリヤ タルニカ 'ウナグロカ。

形容詞活用調査票		
1	おいしい？	豚肉と山羊肉は、どっちがおいしいの？
		?ワートゥ ヤギ (トゥ) ヤ ドウルイ°ガ ?マカリェー？
2	おいしい	山羊肉より豚肉がおいしい。
		ヤギニカ ?ワーガ ?マカ。
3	おいしい？	沖縄の豚肉はおいしいの？
		ナパヌ ?ワヤ ?マカンニャ？
4	おいしくて	うん、おいしくて安いよ。
		ンー { ?マクティ° / ?マカ アティ° } ヤスイ°カッター。
5	おいしくないの？	山羊汁って、おいしくないの？
		ヤギジルヤ ?マカ ネェ°ンナ？
6	おいしいけど	いや、おいしいけど、匂いが少しきつい。
		アイ ?マカンバ ニョーヌ ?ナーリ キツカ。
7	おいしいから	でもヨモギを入れたらおいしいから、食べてみて。
		アシュンバ プ (ツ) ツイ° (バ) イルイ°ルイ°バ ?マカンカナ カディ°ニ。
8	おいしい だろう？	ほら、おいしいだろう？
		ホレェ° ?マカロガ？
9	おいしくない けど	おいしくないけれど、体に良さそうだね。
		?マカヤ ネェ°ンバ カラダッチ イッチャシャキイ°サヤ。
10	おいしかった？	残さないで食べていたけど、おいしかったの？
		{ノーサンニシ カダガ / ノーサングトゥ カディ° 'ウタガ } ?マカ アティ°ナ？
11	おいしかった から	うん、おいしかったから、全部食べたよ。
		ンー ?マカ アタンカナ アンカリ カダ。
12	おいしかった？	どれが一番おいしかった？
		ドウルイ°ガ イチバン ?マカ アティ°？
13	おいしかった	魚の煮つけがおいしかった。
		?ユヌ ニスイ°キイ°ガ ?マカ アタ。
14	おいしい	(残さずに食べたのをみて) へえ、おいしかったんだ。
		アギイ°ー ?マカ アタンジャ。
15	おいしかった のに	あそこの食堂、昔はおいしかったのに、最近はおいしくない。
		アーヌ ショ°クドーヤ ムカシヤ ?マカ { アタンジャガ / アタンバ } ホノゴロヤ ?マク ネェ°ン。
16	おいしかった	そうそう、おいしかった。
		アッシ アッシ ?マカ アタ。

17	おいしくないの？	どのおかずがおいしくないの？
		{ ディン / ドウン } ハテエムンガ ?マ?ク ネエン？
18	おいしくない	キャベツ炒めがおいしくない。
		タマナイリキガ ?マ?ク ネエン。
19	おいしいのに	(自分でたべてみて) こんなにおいしいのに、あの子は何故残したのかなあ。
		アッシ (ガルイ°) ?マカンバ アン クアヤ ヌガ { ノーシッチョ / ノーシャンチョ }。
20	おいしくなかったの？	(残した料理を見て) 今日の夕ごはん、おいしくなかったの？
		{ ヨネエヌ / フーヌ } ユーバンヤ ?マ?ク { ネエーズイ° / ネエンティ°ナ }？
21	おいしかったけど	味噌汁はおいしかったけど、おかずがおいしくなかった。
		ミス (ン) シルヤ ?マカ アタンバ ハテエムンガ ?マ?ク ネエンタ。
22	おいしくなかったから	おいしくなかったから、半分残した。
		?マ?ク { ネエーズイ° / ネエンティ° } パンブン ノーシャ。
23	おいしくなかったの？	どのおかずがおいしくなかったの？
		{ ディン / ドウン } ハテエムンガ ?マ?ク { ネエーズイ° / ネエンズイ° }？
24	おいしくなかった	ニンジンの炒め物がおいしくなかった。
		ニージンヌ イリキムンガ ?マ?ク ネエンタ。
25	おいしくなかったけど	ヤギ汁はおいしくなかったけど、大根の煮つけはおいしかった。
		ヤギジルヤ { ?マカ / ?マ?ク } ネエンタンバ ドコネエヌ ニスイ°キイ°ヤ ?マカ アタ。
26	おいしくないから	おいしくないから、誰も食べないだろう。
		?マ?ク ネエンカナ タルン カンダロ。
27	おいしくないなら	もしおいしくないなら、食べなくてもいいよ。
		?マ?ク { ネエンバ / ネエン ナルイ°バ / ネエン アルイ°バ } { カンタンチ / カンティ° } イッチャットー。
28	おいしくない～	おいしくないものでも、ラードを入れたらおいしくなるよ。
		{ ?マ?ク / ?マカ } ネエンムン アタンチ ?ワン アブラ イルイ°ルイ°バ ?マカ ナリュットー。

29	おいしく なかった～	おいしくなかったヤギ汁が、ヨモギを入れたらおいしくなっ た。
		?マ?ク ネェ ^ン タン ヤギジルヌ プ (ッ) ツィ ^ン (バ) イルイ ^ン タットウ ?マカ ナタ。
30	おいしく なければ	おいしくなければ、誰も食べないだろう。
		?マ?ク ネェ ^ン バ タル (ン) カンダロ。
31	おいしく ないのに	おいしくないのに全部食べるの?
		?マ?ク ネェ ^ン バ アンカリ カユン?
32	おいしく なくても	うん、ひもじいから、おいしくなくても食べるよ。
		ンー ユワカンカナ ?マ?ク ネェ ^ン タンチ カユットー。
33	おいしければ	もう少しおいしければ、もっと食べただろう。
		?ナンナリ ?マカ アルイ ^ン バ (ヤ) ?ナブン カユタロ。
34	おいしく なかったのに	おいしくなかったのに、食べたの?
		?マ?ク (ヤ) ネェ ^ン タンバ カディ ^ン ?
35	おいしかった	ううん、おいしかったよ。私は好きだよ。
		アイ ?マカ アタットー。 ワンヤ スィ ^ン ?キジャ。
36	おいしかったら	もし おいしかったら、もっと食べたかもしれないよ。
		{ ムシン / モシ } ?マカ アタルイ ^ン バ ?ナブン カユタンカモ シェレ ^ン ラン。
37	おいしくても	どんなにおいしくても、食べすぎは良くない。
		キャシ ?マカ アタンチ カイスィ ^ン ギヤ イッチャ ネェ ^ン 。
38	おいしかった～	おばあさんの味噌汁がおいしかったことを思い出した。
		ホンマン ミスンシルガ ?マカ アタン クトウ (バ) オーイジャチャ。
39	おいしい～	たまにはおいしい魚がたべたいな。
		トゥキナ ?マカン ?ユ (ガ) カイシャカ。
40a	ひもじいの?	昨日と今日とどっちがひもじいの?
		?キニュトウ フートウ イツイ ^ン ガ ユワカ アティ ^ン ? (※現在ではなく過去の形になった。)
40b	ひもじいの?	さっきと今とどっちがひもじいの?
		サッキトウ ?ナートウ { ドウルイ ^ン ガ / イツイ ^ン ガ } ユワカリエー?
41	ひもじい	今日の方がひもじい。
		フーガドゥ ユワカ。
42	ひもじい?	おまえもひもじいの?
		?ヤーダカ { ユワカン / ユワカンニャ } ?

43	ひもじくて	うん、ひもじくて死にそうだよ。
		ンー { ユワクティ° / ユワカヌ } シニヨッチドウシユン。
44	ひもじくないの？	おまえは、ひもじくないの？
		?ヤーヤ ユワカ ネェン？
45	ひもじいけど	うん (ううん) 、ひもじいけど、まだがまんできる。
		ンー ユワカンバ ?ナンナリ ホネェ°ラルイ°ットー。
46	ひもじいから	とてもひもじいから、何でも食べられる。
		ワザリ ユワカンカナ ヌージ カールイ°ットー。
47	ひもじいだろう？	おまえも、ひもじいだろう？
		?ヤーダカ ユワカロガ？
48	ひもじくないけど	ひもじくないけれど、少しなら食べられるよ。
		ユワカ (ヤ) ネェンバ { ?ナーリグァ ナルイ°バ / ?ナーリヤ } カールイ°ットー。
49	ひもじかった？	残さないで食べていたけど、そんなにひもじかったの？
		ノーサンニシ カマッタガ アッシガルイ° ユワカアティ°？
50	ひもじかったから	うん、ひもじかったから、全部食べたよ。
		ンー ユワカ アタンカナ プストウ { カダガ / カマッタガ }。
51	ひもじかった？	どれくらいひもじかったの？
		ディ°ンカリバリ ユワカ { アティ° / アタツケェ°イ } ？
52	ひもじかった	皿までたべてしまいそうくらいひもじかった。
		サラバリ カオガルイ° ユワカ アタ。
53	ひもじい	(鍋のご飯がなくなっているのをみて)
		ほんとうに、ひもじかったんだ。 シンカラガ ユワカ アタンジャヤー。
54	ひもじかった	そういえば、あのとき、ひもじかったねえ。
		アッシ イバ アン トウ?キヤ シンカラ ユワカ アタヤ。
55	ひもじかったのに	あんなにひもじかったのに、もう腹いっぱいだ。
		{ アッシ / アッシガルイ° } ユワカ アタンバ ワタヌ ミツチャ。

56	ひもじくないの？	ごはん、食べてないでしょう？何故ひもじくないの？
		ムン カディ° ネェ°ンダログ？ ヌガ ユワカ { ネェ°ン / スィ°ラン }？
57	ひもじくない	じつは、さっきお菓子を食べたから、ひもじくない。
		フンヌィ° サッキ クァシ カダンカナ ユワカ ネェ°ン。
58	ひもじいのに	ひもじいのに、腹をこわして、何も食べられない。
		ユワカンバ ワタヤブルィ°シ ヌヤシマ カーラン。
59	ひもじくないの？	(箸をつけていないのを見て) ひもじくなかったの？
		ユワカ ネェ°ーズィ°ナ？
60	ひもじかったけど	ひもじかったけど、お腹が痛かったの。
		ユワカ アタンバ ワタヌ ヤディ°。
61	ひもじくなかったの？	ひもじくなかったの？
		ユワカ ネェ°ーズィ°？
62	ひもじくなかった	さっきお菓子を食べたからひもじくなかった。
		サッキ クァシ カダンカナ ユワカ ネェ°ンタ。
63	ひもじくなかったから	ひもじくなかったから、はんぶん残した。
		ユワカ ネェ°ンタンカナ パンブンヤ ノーシャ。
64	ひもじくなかったけど	ひもじくはなかったけど、おいしそうだったから食べた。
		ユワカ (ヤ) ネェ°ンタンバ ?マーシャゲェ°カ アタットウ カダ。
65	ひもじくないから	ひもじくないから、今は食べなくてもいい。
		ユワカ ネェ°ンカナ ?ナーヤ カンティ° イッチャットー。
66	ひもじくないなら	もしひもじくないなら、食べなくてもいいよ。
		ムシン ユワカ { ネェ°ンバ / ネェ°ン ナルィ°バ } カンティ° イッチャットー。
67	ひもじくない～	ひもじくない時でも食べた方がいいよ。
		ユワカ (ヤ) { ネェ°ンタンチ / ネェ°ン トゥ°キダカ } カドゥキィ°バドゥ イッチャットー。
68	ひもじくなければ	ひもじくなければ、誰も食べないだろう。
		ユワカ ネェ°ンバ タル アタンチ カンダロ。
69	ひもじくないのに	ひもじくないのに、食べるの？
		ユワカ ネェ°ンバ { カユン / カユンニヤ }？

70	ひもじくなくても	うん、ひもじくなくてもおいしそうだから食べるよ。
		ンー ユワカ (ヤ) ネェンバ ?マーシャキィ°サンカナ カユットー。
71	ひもじければ	もう少しひもじければ、もっと食べただろう。
		?ナンナリ ユワカ { アタルィ°バ / アルィ°バ } ?ナプン カユタロ。
72	ひもじくなかったのに	ひもじくなかったのに、食べたの?
		ユワカ (ヤ) { ネェンバ / ネェンタンバ } カディ°ー?
73	ひもじかった。	ううん、ひもじかったよ。
		アイ ユワカ アタットー。
74	ひもじかったら	もし ひもじかったら、これを食べてもいいよ。
		ムシン { ユワカ アルィ°バ / ユワカルィ°バ } ウルィ° カディ° イツチャットー。
75	ひもじくても	どんなにひもじくても、腐ったのは食べるな。
		キャーシ ユワカ アタンチ スィ°ルィ°ムンヤ カウナヨー。
76	ひもじかった～	昔ひもじかった時のことを思い出した。
		ムカシ ユワカ アタン トウ?キ (バ) オーイジャシヤ。
77	ひもじい～	ひもじいときは何を食べてもおいしい。
		ユワカン ドウ?キヤ ヌー カダンチ ?マカ。
78	ひもじく	とてもひもじくて、仕事ができなかった。
		ワザリ { ユワカヌ / ユワカ アティ° } シグウトウ (ヤ) スィ°ラランタ。
79	辛い	唐辛子はとても辛い。
		コショヤ ムル ハラカ。
80	辛いから	唐辛子は辛いから、食べたくない。
		コショヤ { ハラクティ° / ハラカンカナ } カオッチ オーワン。
81	辛くても	唐辛子は辛くても、おいしいから、好きだ。
		コショヤ ハラカンバ ?マカンカナ スィ°?キジャー。
82	辛かった	唐辛子を入れすぎて、辛かった。
		コショ イルィ°スィ°キチ ハラカ アタ。

83	辛い	今日の おかずは あまり 辛い。
		フーヌ ハテェ°ムンヤ アッシガルイ° { ハラカ / ハラク } ネェ°ン (ガ)。
84	辛くなかった	唐辛子を入れても辛くなかった
		コシヨ イルイ°タンバ ハラカヤ ネェ°ンタ。
85	辛くて	唐辛子を入れたら、辛くて食べられない。
		コシヨヤ イルイ°ルイ°バ ハラクティ° カーラン。
86	辛いのに	こんなに からののに 食べるの？
		アッシガルイ° ハラカンバ カユン？
87	辛かった	あそこの食堂の おかずは 昔は もっと辛かった。
		アーヌ ショ°クドーナ ハテェ°ムンヤ ムカシヤ ?ナプン ハラカ アタ。
88a	辛い！	ああ、辛い！
		ハギイ° ハラカ。
88b	辛い！	辛くてたまらない！
		ハラクティ° スイ°ララン。
88c	辛い！	この汁の辛いこと！
		ウン シルヌ ハラカスイ°ヨー。
89	辛く	唐辛子を入れたら辛くなった
		コシヨ イルイ°タットウ ハラカ ナタ。
90	うれしい	いつでも おみやげは うれしい。
		イツイ° アタンチ ニヤーギイ°ムンヤ ポーラカ。
91	うれしい	ひさしぶりに 孫に 会えて うれしい。
		マレェ°マレェ° ?マガトウ アウティ° ポーラカ。
92	うれしかった	昨日は 孫に 会えて うれしかった。
		?キニユヤ ?マガトウ アウティ° ポーラカ アタ。
93a	うれしい！	ああ、うれしいなあ。
		ハゲェ°ー ポーラカヨー。
93b	うれしい	うれしくてたまらない！
		{ ポーラカヌ / ポーラクティ° } ウシラン。
93c	うれしい	うれしいこと！
		ポーラカスイ°ヨー。

94	うれしい～	うれしい知らせが とどいた。
		ポーラカン パナシヌ アタ。
95	黒い	太郎の車は黒い。
		タローン ?クルマヤ ?クルカ。
96	黒かった	(太郎の買った車を初めてみて) へえ太郎の車って黒かったんだ。
		キィー タローン ?クルマヤ ?クルカ アタ。
97	黒かった	(太郎の車の色を思い出して) そうそう、太郎の車は 黒かった。
		アッシアッシ タロン ?クルマヤ ?クルカ アタガ。
98a	黒い！	うわあ。黒い！
		イッキィー ?クルカヨー。
98b	黒い！	まあ、黒いこと。
		イッキィー { ?クルカンクトウ / ?クルカスイョー }。
99	黒い	おとうさんの 髪は 黒い。
		?チャン ハーチンピギヤ ?クルカ。
100	黒かった	わかいころは おじいさんの 髪も 黒かった。
		ワーカ アロダ フッシュヌ ハーチンピギダカ ?クルカ アタンジャガ。
101	黒い～	黒い 車が 止まっている。
		?クルカン ?クルマヌ トウマトウリ。
102	年上だった	おじいさんとおばあさんはどっちが年上だったの？
		フッシュトウ アンマ (トウ) ヤ タルガ { トウシウ / スイザ } アリョティ？
103	年上だった	おじいさんよりおばあさんが5歳年上だった。
		フッシュニカ アンマドウ イスイツィ° { トウシウ / スイザ } アリョタ。
104	年上だった んだ	(おばあさんの年齢を聞いて) へえ、おばあさんが年上だったんだ。
		?イエー アンマ (ガ) ドウ スィザ アリョティ？
105	年上だった～	おばあさんが年上だったことは、家族しか知らなかったなあ。
		アンマガ { スィザッチ / スィザ アタン クトウヤ } キィンズクバリ (ドウ) シツチュタ。

106	年上だったのに	おばあさんは年上だったのに、おじいさんにやさしかったよ。
		アンマヤ スィ°ザ アタンバ フッシュバ ティ°スィ°ティン シタットー。
107a	年上なのに	おばあさんは年上なのに、威張らなかった。
		アンマヤ スィ°ザ アタンバ オゴレ°ランタットー。 (※現在ではなく過去の形になった。)
107b	年上なのに	おばあさんは年上なのに、威張らない。
		アンマヤ スィ°ザ アンバ オゴレ°ラン。
108	年上でも	おばあさんは、相手が年上でも年下でも区別しなかった。
		アンマヤ ?イエテ°ヌ スィ°ザ アタンチ { シャー / ウトウトウ } アタンチ ウェ°ピリ (ヤ) スィ°ランタ (ットー)。
109	年上じゃなかったのに	おじいさんは年上じゃなかったのに、 おばあさんは敬語を使っていたの？
		フッシュヤ スィ°ザ アランタンバ アンマヤ ウヤマイヨータ シ オーティ°？
110	年上じゃなくても	うん、年上じゃなくても、おじいさんには敬語を使っていた。
		ンー スィ°ザ アランバ フッシュニヤ ウヤマイヨータ シ オータットー。
111	年上なの？	兄さんと姉さんは、どっちが年上なの？
		ネェ°トウ アニトウヤ タルガ スィ°ザウルイ°？
112	年上だ	姉さんが兄さんより三つ年上だよ。
		{ネェ°ガドゥ/ネェ°ヤ} アニニカ ミーツィ° スィ°ザドー。
113	年上だったの？	兄さんが年上だったの？
		アニ (ガ) ドウ スィ°ザ アティ°ー？
114	年上じゃなかった	ううん、年上じゃなかった。
		アイ スィ°ザ アランタ。
115	年上なの？	あなたが年上なの？
		ナンガ スィ°ザ ダリヨン？
116	年上じゃない	ううん、年上じゃない。
		アイ (アイ) スィ°ザ (ヤ) アランドー。

117	年上だった	そうそう、太郎が俺より年上だった。
		アッシアッシ ワンニカ タロー (ガ) ドウ スィ°ザ アタ。
118	年上かなあ	(独り言のように) 太郎と花子はどっちが年上かなあ。
		タロートウ ハナコ (トゥ) ヤ タルガ スィ°ザケ°イ?
119a	年上だろう	花子が太郎より年上だろう
		ハナコガ タローニカ スィ°ザ ダロ。
119b	年上だろう	花子が太郎より年上のはずだ。
		ハナコガ タローニカ スィ°ザヌ パズィ°ジャガ。
120a	年上だっただろう	花子が太郎より年上だっただろう。
		ハナコガ タローニカ スィ°ザ アタロ。
120b	年上だっただろう	花子が太郎より年上だったはず。
		ハナコガ タローニカ スィ°ザ アタロ パズィ°。
121a	年上だったのかなあ。	(年上じゃないとおもっていたけど) 年上だったのかな。
		スィ°ザ アティ°ケ°イ?
122b	年上の	私より年上の甥がいる。
		ワンニカ スィ°ザヌ 'ウイヌ 'ウーリ。
12	年上だから	佐藤さんは、年上だから、とても威張っている。
		サトーサンヤ スィ°ザ アンカナッチシ オゴレ°ティ°。
124	年上じゃなければ	あの人が年上じゃなければ、だれも言うことを聞かない。
		アン ?チュヌ スィ°ザ アランバ タルン ?ユン クトウヤ キキャン。
125	年上じゃなかったから	年上じゃなかったから、言うことを聞かなかった。
		スィ°ザ アランタンカナ ?ユン クトウ キキャンタ。
126	年上じゃないなら	あいつが年上じゃないなら、敬語を使わなくてもいい?
		アンヌ スィ°ザ アランバ ウヤマイヨータ スィ°カイゴレ° イラン。
127	年上じゃないの?	(写真を見ながら) このなかで誰が年上じゃないの?
		ウン ナーナンティ° タルガ スィ°ザ アラン?
128	年上じゃなかったの?	阿部さん、年上じゃなかったの?
		アベサンヤ スィ°ザ アランティ°?

129	年上じゃないのに	うん、年上じゃないのに、いつも威張っていた。
		ンー スィ°ザ アランバ イツィ°ン?クン オゴレ°ティ° 'ウタ。
130	年上じゃなかった～	阿部さんが年上じゃなかったことはみんな知っていたよ。
		アベサンガ スィ°ザ アランタン クトウヤ スーガナ シツチュタットー。
131	年上じゃないから	年上じゃないから、誰も言うことを聞かない。
		スィ°ザ アランカナ スーガナ ?ユン クトウヤ キキャン。
132	年上だったら	もし年上だったら、もっと威張っていたかもしれない。
		ムシン スィ°ザ { アタルイ°バ / アルイ°バ } ?ナプン オゴレ°トウタロ。
133	年上じゃない～	(写真を見ながら) このなかであなたより年上じゃない人は誰と誰?
		ウン ナーナンティ° ナンニカ スィ°ザ アラン ?チュヤ タルトウ タルダリオン?
134	年上じゃない～	年上じゃないのはこの人だよ。
		スィ°ザ { アラン ?チュヤ / アランミヤ } ウン ?チュドー。
135	年上じゃないの?	この人、年上じゃないの?
		ウン ?チュヤ スィ°ザ アラン?
136	年上じゃないが	うん、年上じゃないが、いい人だったよ。
		ンー ウン ?チュヤ スィ°ザヤ アランバ 'イー?チュ アリョタ。
137	年上なら	年上なら年上らしくしなさい。
		スィ°ザ アルイ°バ スィ°ザニシ スィ°ランバ。
138	年上じゃなかったの?	ひいおじいさんとひいおばあさんは、 どっちが年上じゃなかったの?
		フーフッシュトウ フーホンマトウ タルガ スィ°ザ アリョ タツケ°イ? (※否定の形ではなく肯定の形になった。)

形容詞追加調査票		
1	重そうだ	この箱は、本がたくさん入っていて重そうだ。
		ウン パクヤ ホンヌ ヤナカ イッチュティ° ウブカゲェ°カ。
2	重そうだ	太郎は、荷物をたくさん持たされて重そうだ。
		タローヤ シナムン (バ) ヤナカ ムタサッティ° ウブカゲェ°カ。
3a	暖かそうだ	太郎は、厚着をしていて暖かそうだ。
		タローヤ アツィ°ギシ ヌブカゲェ°カ。
3b	暑そうだ	太郎は、厚着をしていて暑そうだ。
		タローヤ アツィ°ギシ アスイ°カゲェ°カ。
4	暖かそうだ	この上着は暖かそうだ。
		ウン ウワギヤ ヌブカゲェ°カ。
5	暑そうだ	(夏に) 外は日が照って暑そうだ。
		ストウヤ ティ°ダンヌ { ティ°ティ° / イジティ° } アスイ°カゲェ°カ。
6	涼しそうだ	(夏に) 木陰は涼しそうだ。
		ヒィン ハギィ°ヤ スィ°ダカゲェ°カ。
7	寒そうだ	(冬に) 外は風が吹いて寒そうだ。
		ストウヤ ハズィ°ヌ スガティ° ピグルカゲェ°カ。
8	甘そうだ	このお菓子は砂糖がたくさんかかっている甘そうだ。
		ウン クァシヤ サタヌ ヤナカ カーティ° アーカゲェ°カ。
9	渋そうだ	このバナナは、まだ熟れていなくて渋そうだ。
		ウン バシヤナリヤ ?ナーガルィ° ウドゥラ (ン) ズィ° シブカゲェ°カ。
10a	面白そうだ	(題名を見て) この本は面白そうだ
		ウン ホンヤ オーシルゲェ°カ。
10b	難しそうだ	(題名を見て) この本は難しそそうだ。
		ウン ホンヤ ムスイ°カゲェ°カ。
11a	誇らしそうだ	太郎は賞状をもらって誇らしそうだ。
		タローヤ ショージョー 'イティ° ポーラカゲェ°カ。
11b	嬉しそうだ	太郎は賞状をもらって嬉しそうだ。
		タローヤ ショージョー 'イティ° オーシルゲェ°カ。
12	うらやまし そうだ	それを見た次郎はうらやましそうだ。
		ウルィ°バ ニシャン ジローヤ オナオカゲェ°カ。
13a	強そうだ	あの相撲取りは強そうだ。
		アン ショートウリヤヤ ?チューカゲェ°カ。

13b	弱そうだ	あの相撲取りは弱そうだ。
		アン ショートウリヤヤ ユワゲェ°カ。
14	柔らかそうだ	この餅はつきたてで柔らかそうだ。
		ウン ムチャ スィ°チ ヤタ アティ° ヤパラカゲェ°カ。
15	固そうだ	この餅は乾燥して固そうだ。
		ウン ムチャ ホラシ フパカゲェ°カ。
16a	新しそうだ	この家は新しそうだ。
		ウン ヤヤ ミーカゲェ°カ。
16b	古そうだ	この家は古そうだ。
		ウン ヤヤ プルカゲェ°カ。
17	良さそうだ	(服屋で) 太郎にはこれが良さそうだ。
		タローニヤ ウンガ イッチャゲェ°カ。
18	苦しそうだ	太郎は病気で苦しそうだ。
		タローヤ ビョー°キシ コペカゲェ°カ。
19	忙しそうだ	太郎は毎日忙しそうだ。
		タローヤ ピーガピン イシヨナカゲェ°カ。
20	元気そうだ	太郎は元気そうだ。
		タローヤ ドックサゲェ°カ。
21	大きそうだ	今度の台風は大きそうだ
		コンドヌ テェ°プヤ °マキィ°サゲェ°カ。
22	おいしくて	あの食堂は、料理がおいしくて、いつも賑わっている。
		アン ショ°クドーヤ ジューリヌ °マカ アティ° イツィ°ン°クン °チューヤ ヤナカジャガ。
23	強くない	今日は風がそれほど強くない。
		フーヤ ハズィ°ヌ アシガルィ° °チューカ ネェ°ン。
24	重くない	この荷物はそれほど重くない。
		ウン シナムンヤ アッシガルィ° { ウブカ / ウブ°ク } ネェ°ン。
25	寒くない	今日はあまり寒くない。
		フーヤ アッシガルィ° { ピグルカ / ピグル°ク } ネェ°ン。
26	寒くて	昨日は寒くて、あられが降った。
		°キヌヤ { ピグルクティ° / ピグルカヌ } アラレェ°ヌ プタ。
27	難しくない	この本はそれほど難しくない。
		ウン ホンヤ アシガルィ° { ムスィ°カカ / ムスィ°カ°ク } ネェ°ン。

28	難しくて	この本は難しくて、読んでも意味が分からない。
		ウン ホンヤ { ムスイ°カカ アティ° / ムスイ°カクティ° } ユダンチ シェデェ°ヌ ワカラン。
29	珍しくない	この品物はそれほど珍しくない。
		ウン シナムンヤ アッシガルイ° ムズイ°ラカ (ヤ) ネェ°ン。
30	珍しくて	この品物は珍しくて、なかなか手に入らない
		ウン シナムンヤ ムズイ°ラクティ° アティ°ダン { ティ°ッチ / ティ°ニ } イラン。
31	良くない	今日はあまり天気が良いくない。
		フーヤ アッシガルイ° ?ワースイ°?キヌ イッチャ ネェ°ン。
32	良くて	今日は天気が良くて、暖かい。
		フーヤ ?ワースイ°?キヌ イッチャヌ ヌプカ。
33	大きくない	うちの車はあまり大きくない。
		{ ワキヤヌ / ヤヌ } ?クルマヤ アシガルイ° ?マキイ°サ ネェ°ン。
34	大きくて	隣の車は大きくて、人がたくさん乗れそうだ。
		アズイ°ラヌ ?クルマヤ マキイ°サヌ ?チュヌ ヤナカヌラルイ°シャキイ°サ。
35	元気でない	太郎はあまり元気でない。
		タローヤ アッシガルイ° ドウクサ ネェ°ン。
36	元気で	次郎は元気で、毎日畑に行っている。
		ジローヤ ドウクサ アティ° { ピーガピン / ジョーテェ°ン } パテェ°チ イジューリ。
37	惜しくない	捨ててもそれほど惜しくない。
		スイ°ティ°タンチ アッシガルイ° アタラシキヤ ネェ°ン。
38	惜しくて	惜しくて捨てられない。
		アタラシキヤヌ スイ°ティ°ララン。
39	欲しくない	酒はあまり欲しくない。
		セェ°ーヤ アッシガルイ° プッシャ ネェ°ン。
40	欲しくて	あの子はおもちゃが欲しくて泣いている。
		アン クァヤ オモチャ プッシャ シ ナシュッカ。

4 佐仁方言の談話資料

本稿で報告する談話は、文化庁委託事業「平成28年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」の予備調査において2017年2月11日に収録し、2021年2月に書き起こしの確認調査を行なったものである。収録場所は話者の自宅（鹿児島県奄美市笠利町佐仁）で、収録時間は約9分間である。話者Aは安田重照氏（昭和13年生まれ・男性）、話者Bは安田絹枝氏（昭和18年生まれ・女性）で、臨席者は本稿の筆者2名である。資料の提示の体裁については、左側から例文番号、話者記号（A/B）、カナ表記、共通語訳の順に示している。聞き取りができない部分は（...）で表している。また、佐仁方言としてより自然な言い方があると話者が判断した場合は（=○○）の形で示している。なお、「アン（あの）」「ウン（その）」「ナ（もう）」などがフィラー（間つなぎ語）として使われている場合には、共通語訳には反映していない。

談話の話題は以下の通りである。

- 話題の概要：「話者の子どもの頃の生活」
- より細かな話題（対応する例文番号）
 - 子どもの仕事（1～18）
 - ソテツの実のお粥（19～38）
 - サツマイモの朝掘り（39～49）
 - 火の点け方（50～92）
 - 履物（93～139）
 - 弁当（140～172）
 - 服（173～199）
 - 風呂（200～258）

1	A	ワキヤガ ?ナ ムン オブエ°テエ°ケエ°タン ドウ?キヤ	私たちが物を覚え始めた（物心ついた）ときは
2	A	シエンソーヌ アト ヤタ アテイ° ショ?クリョーチバ ネエ°ン	戦争の直後で食料はない
3	A	ショーガッコー ナルイ°バヤ ?ナ サン ヨネエ°ンラガ クァーモリ	小学校になるともう三、四年から子守り
4	A	ウトウトウジャ イモトヌ クァーモリ	弟やら妹の子守り
5	A	?ウナグヌ ?チュヤ クァーモリ	女の人の子守り
6	A	?インガヤ アン ウシヌ クサ	男は牛の草...
7	A	ウシバ スッチ ウシニ クサ カーシャーリ	牛を引いて牛に草を食べさせたり
8	B	スピ?キ クサナ	スピキクサ（牛を引いて草を食べさせること）？
9	A	スピ?キ クサ	スピキクサ

10	A	アン ウシヌ ツィ°ナヤ	牛の綱は
11	A	タズィ°ナ ミンジ	手綱を掴んで
12	A	クサ ?キリ?キラン ドウ?キワ (=ドウ?キヤ)	草を切ることができないときは
13	A	ミチヌ	道の...
14	A	?チュヌ サ?クモツバ カーサンニシ	人の作物を食べさせないように
15	A	ミチヌ	道の...
16	B	ブチグダリ	側の辺り？
17	A	ンー	うん
18	A	アン ミチヌ クサ カーシャーリ シ	道の草を食べさせたりして
19	A	アッスイ°ルィ°バ	そうしたら
20	A	アン シュショ?クヤ ナリガエ アタンカナ	主食はナリ（ソテツの実）のお粥だったから
21	A	?ウナグヌ ?チュンキヤ ナリワリ	女の人たちはナリワリ（ソテツの実の製粉）
22	A	ウンバ	それを
23	A	ナリ ワリッチュンクトウヤ	「ナリワリ」ということは
24	A	シェイフン シュン クトウバ ワリッチドゥ ?ユンカナヤー	製粉することを「ワリ」と言うからね
25	A	アルィ°バ	あれを
26	A	ナンゴカ ナリバ ワティ°	何合かソテツの実を製粉して
27	A	ウンガ	それが...
28	B	ナリヤ ムズィ°チ プ?クラサンバヤ アルィ° スィ°ラランダロガ	ソテツの実は水に浸さないであれ（製粉）できないでしょ？
29	A	ウンミヤ ?ナ ド?クヌケ シャン アト アルィ° シュンカナ	それはもう（水に浸して）毒抜きしたあとあれするから
30	B	?チャー	そう
31	A	アッスイ°ルィ°バヤ ?ウナグヌ クァヤ	そうしたら女の子は
32	A	?チュニ ユティ°ヤ チューガッコー ナルィ°バ クァーモリヤ シーガッチャナ	人によっては中学校になると子守をしながら
33	B	ナリガエ タキ	ソテツの実のお粥炊き？
34	A	アン ナリガエ アン	ソテツの実のお粥
35	A	ナリバ シュージ	ソテツの実を砕いて
36	A	アシシ	そして...
37	B	?キンブリトゥ プティ°	目の細かい金属の篩にかけて？
38	A	コナ ナシ	粉にして

39	A	アシシ 'ウナグヌ ?チュヤ	そして女の人は
40	A	アサボリチシ アサゴハンマエ	アサボリ（サツマイモを朝掘ること）と言って朝ごはん前
41	B	スイ°カマ	朝
42	B	スイ°カマ	朝...
43	A	トンバ スイ°カマ プェ°ーカ	サツマイモを朝早く
44	B	ネェ°サリ スイ°ラン ウチダログ	朝ごはんを食べないうちでしょ？
45	A	パテェ° イジ	畑行って
46	A	アサゴハン シュン タウ	朝ごはんをする分
47	A	ウルイ°バ ショ?クジ シ	それ（朝掘ったサツマイモ）を食事にして
48	A	ガッコーチ クアンキャバ ヤラシタガナッチドー	学校へ子どもたちをやっていたよ
49	B	スイ°カマ プェ°ーカ ウーティ° シタガナッチドー	朝早く起きてしていたよ
50	A	ムェ°ーシムンチバダカ	焼き物も
51	A	?ナーニシ ガスダカ ネェ°ンバ	今みたいにガスもなければ
52	A	ヤー イジ ヒイ° ピラティ°ッチ	山に行って木を拾ってきて
53	A	ウンガ	それが...
54	A	ウンシ ムンシ ウン	それで炊事をして
55	A	?ナーヌ クアンキャ ?ナ ヒイ°ブカッチンキャ ワカランダッカヤー	今の子供たちは煙たいのなんて分からないだろうね
56	B	?マツイ° テェ°ツケェ°ンミヤ アン アルイ°	火を点けるのはあれ？
57	B	ウン ユダグアヤ ヌッチガ ?ユル	小枝は何ていうんだっけ？
58	A	ユダッチバ	枝って？
59	B	ユダ	枝...
60	B	?マツイ° テェ°ツケェ°ン ドウ?キ マツイ°ギイ°ン パージャ	火を点けるとき松の木の葉っぱやら
61	B	アルイ°ッチ 'ウズル	あれって「ウズル（小枝）」
62	A	'ウズル	ウズル
63	B	'ウズルグア ウシカラガ ダイシュン ヒイ°ヤ ウシ ?マツイ° テェ°ツケェ°スイ°タログ	ウズルを置いてから大きな木を置いて火を点けていたでしょ
64	A	?マツイ° イシャガ アルイ°ジャヤー	火と言えばあれだね
65	A	?ナーニシ マッチッチュンダカ アンバリ ネェ°ン	今みたいにマッチというものもあまりない

66	A	ウン ?マツイ° オコシユン ドウ?キヤ	火を起こすときは
67	A	ユル スィ°カタン ?マツイ°バ	夜使った火を
68	A	ナーシャガルイ°	翌日まで...
69	B	パイグアトウ ウサティ°	灰で埋めて？
70	A	ナーシャガルイ° ウシクンタウニ パイシ ウサディ°	翌日まで置いておくために灰 で埋めて
71	B	ウサティ°	埋めて
72	A	アッスィ°ルイ°バ	そうすれば
73	A	アン プカ アン	他...
74	A	ウルイ°バ ?マツイ°バ (= ?マツイ°ヌ) ネェ°ンチュンキヤ	それを火がない人は
75	A	?マツイ°グア ?クルイ°ティ° ?クルイ°ルイ°ツチシ ウンバ ウェ°ーティ°	「火をください」と言ってそ れを分けて
76	A	ウンバ ムトウ ナシ ?マツイ° オコシャリ シャガ	それを元にして火を起こした りしたけれど
77	B	?マツイ° テェ°ツケェ°ン	火を点ける...
78	A	?ナーヌ クァンキヤ アッシュンヌンキヤ ワカラランダッカヤー	今の子供たちはそんなのなん かは分からないよね
79	B	ヒイ°ブカダカ ワカラン アラン	煙たさも分からないんじゃない？
80	A	アシシ	そして
81	A	アッサルイ°バ アン プックシ	そうしたら火吹き竹
82	B	ヒイ°ブシヌ イジルイ°バ	煙が出たら？
83	A	プックシシ プープー ?クー?キ ウクティ°	火吹き竹でフーフー空気を送 って
84	A	?マツイ° ムェ°ーシ ウンシ ムンシ	火を燃やしてそれで炊事して
85	A	マタ アウプリンキヤ ナルイ°バヤ	また雨降りなんかになると
86	A	ウン ムェ°ーシムンガ	その焚きものが
87	B	シタルイ°バヤ	濡れるとね
88	A	シタティ° ナカナカ ムェ°ーラズイ°	濡れてなかなか燃えなくて
89	A	チコ?ク	遅刻...
90	A	ムン カンバ ユワカ アリ	ご飯を食べなければ空腹で
91	A	カディ°キバ チコ?ク スィ°ロスイ°ロシ	食べていくと遅刻しそうにな って
92	A	?ナ ナコナコシヤ ガッコーチ イキイキ シタンジャガ	もう泣きそうになって学校に 通っていたんだよ
93	A	アン ?クイムンチバ ネェ°ン ハラパギナティ°	履物はなく裸足で

94	B	?チャー	そう
95	B	ハラパギナティ°	裸足で
96	A	ワキャガ	私たちが
97	B	チューガッコーガルイ°ヤ ハラパギナティ° イキュタガナッチドー	中学校までは裸足で行っていたよ
98	A	イン ロッキロバリ ヨン?キロバリ ?ナ アン ガッコーチ	うん 六キロぐらい四キロぐらい学校へ
99	A	クツッチバ ネェ°ン ハラパギナティ°	靴はなく裸足で
100	A	アシシ	そして...
101	B	プユヌ アラレェ°ヌ ウティ°ン ドウ?キドウ	冬のあられが降るときが
102	B	パギヌ ピグルカティ° アルイ° アタ	足が冷たくてあれだった
103	A	ガッコーチバ	学校は
104	B	ピグルカ アタ	寒かった
105	A	ナーバリ	中だけ...
106	A	ガッコー	学校
107	A	パリヤ タテェ°ティ° タダ ウーバリ プチ	柱を立ててただ上だけ（萱を）葺いて
108	B	シャヤ	下は...
109	A	マドダカ ネェ°ン	窓もない
110	B	シャヤ アルイ°ナ	下はあれ？
111	B	スイ°ナジ	砂地？
112	A	シャヤ スイ°ナジ	下は砂地
113	A	ヨコラガ アムイ°ハズイ° ウシ?クーディ°	横から雨風が入り込んで
114	A	アウヌ プルイ°バヤ	雨が降ると
115	A	ツクエジャ ヌージャッチ シタルイ°バ	机やら何やら濡れると
116	A	アラン ドロッチ	そうでないところに
117	A	アウヌ プラン ドロッチ ユタリ キャシャーリ シ	雨の降らないところに寄ったり何とかしたりして
118	B	スイ°ナトウ パギグアンキャ ウサユタン アラン	砂で足なんか埋めていたんじゃない？
119	A	パギシ ウサディ°	足で埋めて
120	A	ワキャガ チューガッコーヌ ドウ?キヤ	私たちが中学校のときは
121	A	ナゼェ°ガルイ° ?ナー イバ イェンソ?クジャガ リョコーチシ アッチ	名瀬まで今言えば遠足だけれど旅行と言って歩いて
122	A	ウン ドウ?キ クツヌ ネェ°ンバ イキャンチシ シャンバ	そのとき靴がないといけなくて言ってそうした（靴を買った）けれど

123	A	ウン サイズヌ ワカラズィ° ウン ドゥ?キヤ ナンモン ナンモンチ	サイズが分からなくてその時 は何文何文って
124	B	ナンモンチ ワカラズィ°	何文か分からなかった?
125	A	ナンモン ナンモンチ ワカラズィ°	何文何文って分からなくて
126	A	ドーソーナンティ° ?チューリ ?ターリ クツンキャ ?クドウルィ°バ	同級生で一人二人靴なんか履 いていて
127	A	アルィ°ガ ウン (...) アン プバーリ アンカナ ワン パギヤッチ ヒカ?ク シ	「あれが あのくらいだから私 の足は」って比較して
128	A	(...) ナンモンチチャットウ アワズィ°	何文と言ったら (サイズが) 合わなくて
129	A	トチュー イジ	途中まで行って
130	A	イチ?キロバリ アッチャットウ	1キロほど歩いたら
131	A	ナゼェ°ガルィ°ヤ ヨンジツキロ アリンジャガ	名瀬までは40キロあった頃だ けれど
132	A	イチ?キロ アッチャットウ	1キロ歩いたら
133	A	クツズレェ° シ アトヤ ウンバ	靴ずれしてあとはそれを
134	B	クツヌ マウヌ イジティ°	靴のまめができたの?
135	A	マウヌイジティ° ウンバ ハタウティ° イジ	まめができてそれ(靴)を担 いで行って
136	A	ナゼェ°チ イジ	名瀬に行って
137	A	ウンガ	それが
138	A	ミームンバ ムッチュンガ ジマンチ シタン ジダイジャガ	新しいのを持っているのが自 慢だっけしてしていた時代だよ
139	B	ハラパギシ アルィ°ジャガナ	裸足であれだよ
140	A	アン ドゥ?キチバ ?ナーニシ キューショ?クダカ ネェ°ン	あの時は今みたいに給食もな い
141	B	?チャー	そう
142	A	ベントー ムッチ イキバ	弁当を持っていくと
143	A	サカミチ パシリバヤ ガッタガッタ ユスイ°ラッティ°	坂道を走るとガタガタ揺られ て
144	A	ベントーヌ サンブンノイチバリ ナリユン ドゥ?キ	弁当が三分の一だけになった とき
145	B	ハタブチッチ ユティ°	片方の端に寄って?
146	A	ハタブチッチ ユティ°	片方の端に寄って
147	A	ウン ?イエーティ° カユン ドゥ?キヤ	それを開けて食べるときは
148	A	ウンヌ ?ティ°ツイ° アルィ°バヤーッチ オーイオーイ シタ	その一つ分(弁当箱一杯) あればなあと思ったものだ
149	A	オカズッチバヤ	おかずは

150	A	スイ°キィ°ムングァヌ アルィ°バ シェイジェイ 'イーオカズ アティ°	漬物があればせいぜい良いお かずに...
151	B	スイ°キィ°ムンヌ アルィ°バ ジョートー ダッカ	漬物があれば上等でしょ？
152	A	ミスグァンキャ ムッチャ	味噌なんか持って
153	A	アッシ ?ナ アン ドウ?キヤ	そしてもうあのときは
154	A	ゴハンヌンキャヌ カーリィ°バヤ ムル ユル?クドウタガナッチドー	ご飯なんかを食べられたらと ても喜んでいたよ
155	B	ベントーッチ ゴハンヌ ムタルィ°バ アルィ°ジャガナ	弁当にご飯を持てれば あれ じゃない
156	A	アン アルィ°ドー	あれだよ
157	B	イッチャッカナ	いい方よ
158	B	トン ムッチダカ シャン アラン	サツマイモを持ったりもした んじゃない？
159	B	トンダカ ムッチ イジャン アラン	サツマイモも持っていったん じゃない？
160	A	アン ワキャ ショーヤ アンバリ トンヤ ネェ°ンタンカナ	私たちの集落はあまりサツマ イモはなかったから
161	A	アン ガイマイヌ	外米の
162	B	トーパ?ク	「トウパク」？
163	A	ツーショー ?ユン トーパ?クグーシ ゴハン タシ	通称言う「トウパク」米でご 飯を炊いて
164	A	アッシャンバ	そうすると
165	A	アン ユージャ ブルンキャ パテェ°ヌ ヤナカ アティ° トンヌ アタンカナ	用（集落名）やら辺留（集落 名）なんかは畑がたくさんあ ってサツマイモがあったから
166	A	トン	サツマイモ
167	A	?ナー アスイ°タ トンバリ	もう彼らはサツマイモばかり
168	A	アッシェンカナ ショークアヌ ゴハン ムシキェンチシ	だから佐仁の子どもがご飯を 持ってくるって
169	A	ムル	とても
170	B	オナオカ シャロ	うらやましがったでしょ？
171	A	ムル オナオカ シタガナッチ	とても うらやましがっていた よ
172	A	?ナ (...)	もう
173	A	プ?クッチバ ?ナーニシ シェイプ?クンキャヌ アンニヤッチ	服は今みたいに制服なんか があるもんか
174	B	?チャー	そう

175	B	ムカシヤ エッチビー アラン	昔はHB じゃない？
176	B	アメリカヌ	アメリカの
177	A	アメリカヌ ハライサゲヌ	アメリカの払い下げの
178	B	ハライサゲヌ エッチビー	払い下げの HB
179	A	?ナーニシ アルイ°ダカ	今みたいにあれも... (服もたくさん着ずに)
180	A	ヒトエヌ アーシュングァ キチ ピグルカ	一重のあんなの(粗末なもの)を着て寒い
181	B	ハダシャツッチバ ネエ°ンバヤー	肌シャツはなくてね
182	A	アン ドウ?キヌ クアヤ ?チューカ アタンジャ	あのときの子ども強かったんだ
183	B	ピグルカ アタンチ ウン イチマイシカ ?キランタログッチドー	寒くても その一枚しか着なかったでしょ？
184	B	ズボンッチバ ハンズボン アラン	ズボンは半ズボンじゃない？
185	A	ハンズボン キチ	半ズボンを履いて
186	A	ワキャ ソツギョーシャシン ニバヤ	私たちの卒業写真を見ると
187	A	ショーガッコン ドウ?キヌ ソツギョーシャシン ニバヤ	小学校のときの卒業写真を見ると
188	A	ショーガッコー アンカナ シェイプ?クンキャ ネエ°ズイ°	小学校だから制服なんかなくて
189	A	タウダウ バンドッチバ ツイ°ナシ シューン クァダカ 'ウルイ°バ	それぞれにベルトは縄で締める子もいて
190	B	ツイ°ナガルイ°	縄まで？
191	A	'イーロシ バンドガルイ° シューン クァダカ 'ウティ°	紐でベルトも締める子もいて
192	B	ツイ°ナ?キビナ	縄の紐？
193	A	ツイ°ナ?キビシ バンド	縄の紐でベルト
194	A	ウワギヌ ボタンチバ ?キルイ°ティ° イジ	上着のボタンは切れていって
195	A	イスイ°ツイ° ボタン ウチナンティ° ?ターツイ° ミーツイ°バリ アン	五つボタンのうちで二つ三つだけある
196	A	ウンヌ アン ソツギョーシャシン ?キョーサクイ°サ	これがある(そんな様子が残っている)卒業写真はかわいそうだ
197	B	ダイタン シュン クアヤ アルイ°ジャガナ	やんちゃな子はあれじゃない？
198	B	ハタバランキャ ヤブルイ°トウンバドゥ キチュタガナ	脇腹なんか破れているのを着ていたよね
199	B	セエ°ーレエ°トウンバ	裂けているのを

200	A	アッシ スィ°ルィ°バ アルィ°ジャヤー	そうするとあれだね
201	A	ポロダカ アン ’ウリヤ アン ゴエモンブロ アティ°ヤー	風呂もあの頃は五右衛門風呂 だったね
202	B	ストウブロ	外風呂
203	A	ストウナンティ° ヤーダカ ネェ°ン	外で小屋もない
204	B	?チャー	そう
205	A	タダ ポロバ ウシ	ただ風呂を置いて
206	A	アッシ アン ムズィ° ?クイマイ アタンカナ	そして水を汲まないといけな かったから
207	A	アン イドヌ ブチヌ ?マーナンティ° アルィ° シ	井戸のそばのそこであれして
208	B	ホーヌ ブチダロガ	ホー（井戸）のそばでしょ
209	A	ホーヌ ブチナンティ° シ	ホーのそばですて
210	A	アッシ ’ウナグヌ ?チュンキャ アルィ° シュン ドウ°キヤ	そして 女の人たちはあれ（入 浴）するときは
211	A	?チュニ ニヤーランニシ	人に見えないように
212	B	ヤド タテェ°ティ°	戸を立てて
213	A	ヤド タテェ°ティ°ドウ ポロ イリュタン ジダイジャガ	戸を立てて風呂に入っていた 時代だよ
214	A	?ナーヌ クァンキャニ アッシ イシャンチャ アルィ°ダロヤー	今の子どもたちにそう言った ってあれだろうね
215	B	ワカラランダロヤー	分からないだろうね
216	A	ワカラランダロヤー	分からないだろうね
217	B	プユヌ ピグルカン ドウ°キダカ アルィ°ジャガヤー	冬の寒いときもあれだよ
218	B	ストウヌ ポロドウ イリュタガヤー	外の風呂に入っていたよね
219	A	ウン ポロジャガ マタ ウン	その風呂だけれど...
220	B	ダークンナンティ° ポロダカ ネェ°ンタン アランナッチドー	風呂もどこにでもあるわけじ ゃなかったんじゃない？
221	A	?チャー	そう
222	A	アッシ アンカナ ポロヌ アン ドウ°キヤ アン	だから風呂があるときは...
223	B	イラシ ?クルィ°ルィ°ッチシ	「入らせてください」って言 って
224	A	ポロヌ アンチュンカナ イラシ ?クルィ°ルィ°ッチシ	「風呂があるそうだから入ら せてください」って言って

225	A	マタ ポロ タシャンカナ イリガ クーチ	また（風呂を炊いた人は） 「風呂を炊いたから入りに来 なさい」って
226	A	?チューキョデェンキャバ	親戚を
227	B	アブティ°	呼んで？
228	A	デェンワダカ ネェンバ ワザワザ アブティ° ポロンキャ イラシタガ	電話もなくてわざわざ（直 接）呼んで風呂なんか入らせ ていたけれど
229	A	アン ?チューキョデェンキャヌ キョーデェンクァンキャヌ ヤーチ アスイ°ピガ クバ	親戚の子が家に遊びに来ると
230	A	?マンティ° ’ウタン ウヤッチュンキャヤ	そこにいた親たちは
231	A	?ヤキャ ヌー カディ° ?ヤキャ ヌー カディ°	「お前たちは何食べた？」 「お前たちは何食べた？」
232	A	ムンヤ カディ°ナーツチシ	「ご飯たべた？」って言って
233	A	マンブク ナタツケェ°イジャッチ ウン シワ シュンキャドウ	「満腹になったかな？」って 心配することなんか
234	A	?ナー オーウバ ウヤッチュンキャ ?ナ シワ シタン アラン	今思えば親たちは心配してい たんじゃない？
235	B	ムン	食べもの...
236	B	タウダウ ムンヤ アッシ カーランタンダッカッチドー	それぞれに食べ物はそう（満 足に）食べられなかったでし よ
237	A	アン ’ウリヤ マタ シゴトッチバ	あのときはまた仕事は
238	A	チョード アルイ°ジャヤー	ちょーど あれだね
239	A	?ナー’ウリ ナルイ°バヤ	今頃になると
240	A	ターヌ ヒリョー ナリユンチシ	田の肥料になると言って
241	A	セェ°テェ°ツイ°グァヌ パー	ソテツの葉っぱ
242	A	ターチ ?クディ°	田んぼに踏み込んで
243	A	アンガ マタ	あれがまた
244	A	セェ°テェ°ツイ°ヌ アルイ°シ	ソテツのあれ（棘）で
245	B	ギニ スイ°カッティ°	（ソテツの）棘が刺さって？
246	A	スイ°カッティ°	刺さって
247	A	ウン ポロ イリユン トウ?キヌ ヤダン クトウヤー	風呂に入るときの痛かったこ と
248	A	アッシユンカナ	だから
249	A	クツダカ ネェンカナ	靴もないから
250	A	ポロダカ ピーガピンヤ タキ?キラン	風呂も毎日炊けない
251	A	ムル	とても...

252	A	パギッチバ ワルイ°テイ° ポロ イリュン ドゥ?キヌ ヤダン クトウヤー	足は割れて風呂に入るときの 痛かったこと
253	B	ウニンヤ ジェンブ アッシ シタンダッカ	そのころはみんなそうしてい たでしょ?
254	A	?ナーヌ クァンキャ	今の子どもたちは...
255	B	アッシンキャ スイ°ラシャンギリ アルイ°ドー	そんな風にさせたってあれだ よ
256	B	タル シュン ?チュ 'ウランドー	誰もする人はいないよ
257	A	ナキュンカムヤー	泣くかもね
258	B	'チャー ナキヨ	うん泣くよ

参考文献

- 上野善道（1996）「奄美大島佐仁方言のアクセント調査報告—名詞の部」『琉球の方言』20: 26-57.
- 上野善道（1997）「奄美大島佐仁方言のアクセント調査報告—用言の部」『琉球の方言』21: 1-42.
- 狩俣繁久（2003）『奄美大島笠利町佐仁方言の音声と語彙』大阪学院大学情報学部.
- 狩俣繁久（2021）「琉球諸語の発音と書き表し方（暫定版）」沖縄言語研究センター定例研究会（2021年1月9日）発表資料.
- 重野裕美（2014）「北琉球奄美大島佐仁方言の敬語形式」『広島経済大学論集』36(4): 75-85.
- 重野裕美・白田理人（2018）「北琉球奄美大島笠利佐仁方言の尊敬動詞について」『琉球の方言』42: 25-59.
- 白田理人（2018）「鹿児島県奄美大島佐仁方言」『文化庁委託事業報告書 平成29年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』pp. 177-180.
- 白田理人・重野裕美（2019）「奄美大島笠利町佐仁方言の動詞・形容詞の活用」『文化庁事業報告書 平成30年度 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』pp.1-33.
- 白田理人・重野裕美（2021）「奄美大島笠利佐仁方言の形容詞・談話資料」『文化庁事業報告書 令和2年度 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』pp.1-30.